

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学科名：エコ・コミュニケーション科(3年制) ドッグマスター専攻
【2019年度より新教育課程を適用】

授業科目名		授業時間数
新教育課程 (1年生対象)	動物形態機能学	150
	動物感染症学	90
	動物人間関係学	30
	動物福祉・倫理	30
	動物行動学	30
	伴侶動物学	60
	動物内科看護学演習	120
	グルーミング概論	30
	グルーミング演習	60
	トリミング理論	30
	ドッグトレーニング演習Ⅰ	60
	動物介在活動演習	15
	人と動物のふれあい活動	15
	動物医療コミュニケーション	60
旧教育課程 (2・3年生対象)	ドッグトレーニングⅡ	60
	ドッグトレーニングⅢ	60
	動物繁殖学	15
	動物疾病看護学	150
	幼齢動物管理	15
	動物病理学	30
	犬の行動学	60
	動物人間関係学	30
	動物福祉論	30
	動物医療関連法規	30
	エキゾチックアニマル	30
	飼養管理学	30
	動物薬理学	30
	臨床動物看護学	90
	動物入院管理	30
	動物看護演習Ⅱ	120
	動物臨床検査学	30
	動物臨床検査学演習Ⅰ	90
	動物臨床検査学演習Ⅱ	135
	外科動物看護演習	105
	グルーミング演習Ⅱ	60
	トリミング演習Ⅰ	270
	トリミング演習Ⅱ	360
トリミング演習Ⅲ	360	
合計		3000 (200)

※()内は単位数

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物形態機能学 (Physiology and Anatomy of Animals)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	木道 浩子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日2・3時限 木曜日5時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>動物の看護をおこなうためには、対象動物の体の正常な構造と各器官が担う役割を理解し、専門職として知っておくべき名称・語句を適切に使用する必要がある。この授業では検査や疾病を学ぶうえでの基盤となる知識を身につけていく。</p> <p>※実務経験者 獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>主に犬猫を中心に、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経系・感覚器系の機能を理解し、解剖学用語を用いながら説明できる。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	形態学(解剖学)と機能学(生理学)とは何か 細胞の種類と構造
2回目	細胞小器官とその働き 核と遺伝情報および細胞分裂
3回目	神経系: 神経系の成り立ちと構造 情報の伝達および神経伝達物質
4回目	脳と脊髄のつくりと働き
5回目	末梢神経のつくりと働き ビデオと確認テスト
6回目	感覚器: 眼の構造と機能
7回目	耳・鼻の構造と機能
8回目	味覚と感覚受容器
9回目	皮膚の構造と機能 確認テスト
10回目	運動器: 全身の骨格と関節 骨のつくりと働き
11回目	筋肉の分類と構造
12回目	筋肉の動きと神経支配 ビデオと確認テスト
13回目	消化器: 消化器の成り立ちと構造 口腔内器官と働き
14回目	胃・小腸の構造と機能 栄養素を取り込むしくみ
15回目	前期評価及び振り返り
準備学習 時間外学習	毎授業ごとに次回授業に該当するテキストのページを告知します。熟読のうえ授業に参加してください。 また、小テストに向けて各自復習をしてください。
評価方法	小テスト(40%) 筆記試験(60%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト2(ファームプレス) 犬と猫の解剖セミナー(インターズー)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物形態機能学 (Physiology and Anatomy of Animals)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	木道 浩子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日2・3時限

【授業の学習内容】

動物の看護をおこなうためには、対象動物の体の正常な構造と各器官が担う役割を理解し、専門職として知っておくべき名称・語句を適切に使用する必要がある。この授業では検査や疾病を学ぶうえでの基盤となる知識を身につけていく。

※実務経験者

獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。

【到達目標】

主に犬猫を中心に、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経系・感覚器系の機能を理解し、解剖学用語を用いながら説明できる。

授業計画・内容

1回目	消化器：肝臓の機能と働き
2回目	膵臓の機能と働き 確認テスト
3回目	呼吸器：呼吸器の成り立ちと構造
4回目	ガス交換のしくみ
5回目	アシドーシスとアルカローシス
6回目	循環器：心臓のつくりと働き
7回目	刺激伝導系
8回目	血管の種類と構造 胎児循環
9回目	リンパ系と免疫
10回目	血液成分と働き 血液凝固と血液型 確認テスト
11回目	泌尿器：泌尿器の成り立ちと構造
12回目	尿産生のしくみと体液の調節
13回目	内分泌：内分泌機能と作用
14回目	代表的なホルモンの働き
15回目	後期評価及び振り返り
準備学習 時間外学習	毎授業ごとに次回授業に該当するテキストのページを告知します。熟読のうえ授業に参加してください。 また、小テストに向けて各自復習をしてください。
評価方法	小テスト(40%) 筆記試験(60%)
【使用教科書・教材・参考書】 □	
動物看護コアテキスト2(ファームプレス) 犬と猫の解剖セミナー(インターズー)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物感染症学 (Infectious Diseases of Animals)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	木道 浩子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】

動物の健康を促進し維持するためには、対象となる動物の感染症について理解する必要がある。この科目では予防と看護に活かすために、主に犬猫に感染する内部寄生虫・外部寄生虫・微生物について学ぶ。

※実務経験者

獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。

【到達目標】

犬猫に寄生する主な寄生虫のライフサイクルと予防について説明できる。
 犬猫に感染する主な微生物の感染経路と予防法について説明できる。
 犬猫のワクチンで予防できる疾患とその症状・伝播様式を説明できる。
 犬猫のワクチネーションプログラムについて説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	感染症の定義と感染症が成立するための3要素
2回目	様々な感染経路と発症
3回目	宿主の感受性と免疫の仕組み
4回目	感染症の制御とワクチン
5回目	ワクチンの接種プログラムと副反応
6回目	病原微生物の定義と種類
7回目	細菌の構造と分類
8回目	犬猫の主な細菌感染症
9回目	特殊な細菌
10回目	真菌の構造と分類
11回目	犬猫の主な真菌感染症
12回目	ウイルスの構造と分類
13回目	犬猫の主なウイルス感染症
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	前期のまとめ
準備学習 時間外学習	毎授業ごとに次回授業に該当するテキストのページを告知する。熟読のうえ授業に参加すること。 また、小テストに向けて各自復習をすること。
評価方法	小テスト(40%) 筆記試験(60%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト3(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物感染症学 (Infectious Diseases of Animals)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	木道 浩子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日1・2時限

【授業の学習内容】

動物の健康を促進し維持するためには、対象となる動物の感染症について理解する必要がある。この科目では予防と看護に活かすために、主に犬猫に感染する内部寄生虫・外部寄生虫・微生物について学ぶ。

※実務経験者

獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。

【到達目標】

犬猫に寄生する主な寄生虫のライフサイクルと予防について説明できる。
 犬猫に感染する主な微生物の感染経路と予防法について説明できる。
 犬猫のワクチンで予防できる疾患とその症状・伝播様式を説明できる。
 犬猫のワクチネーションプログラムについて説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	犬の主なウイルス疾患(パルボ・ジステンパー・コロナウイルスなど)
2回目	犬の主なウイルス疾患(伝染性肝炎・ケンネルコフなど)
3回目	猫の主なウイルス疾患(汎白血球減少症・ウイルス性鼻気管炎など)
4回目	猫の主なウイルス疾患(猫白血病・猫免疫不全ウイルス感染症など)
5回目	ウイルス疾患の確認テストとまとめ
6回目	寄生虫の形態や分類・生活環
7回目	犬猫の主な内部寄生虫症(フィラリア症)
8回目	犬猫の主な内部寄生虫症(線虫)
9回目	犬猫の主な内部寄生虫症(原虫)
10回目	犬猫の主な内部寄生虫症(条虫・吸虫など)
11回目	内部寄生虫の確認テストとまとめ
12回目	犬猫の主な外部寄生虫症(ダニ類)
13回目	犬猫の主な外部寄生虫症(ノミ・シラミ類)
14回目	犬猫の主な外部寄生虫症(その他)
15回目	後期評価および振り返り・まとめ
準備学習 時間外学習	毎授業ごとに次回授業に該当するテキストのページを告知します。熟読のうえ授業に参加してください。 また、小テストに向けて各自復習をしてください。
評価方法	小テスト(40%) 筆記試験(60%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト3(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物福祉・倫理 (Animal Welfare and Ethis)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	本村 直子
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

動物看護師は動物福祉の向上を常に意識する必要がある。この科目では動物福祉を考えるうえで把握しておくべきコンパニオンアニマルとしての動物のルーツを知り、人と動物のかかわりの歴史や動物観の変化を学ぶ。

※実務経験者

犬の飼育環境やコミュニケーション等、飼い主と愛犬の暮らしをサポートするコンパニオンアニマル・アドバイザー

【到達目標】

文化や時代背景の違いによる動物観の違いを理解している。
自分自身のもつ動物観を認識している。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業内容とすすめ方について説明、自己紹介
2回目	動物の福祉とは？(「5つの自由」を理解する)
3回目	人と動物との関わり(飼育動物との関わりを理解する)
4回目	人と動物との関わり(産業動物との関わりを理解する)
5回目	人と動物との関わり(伴侶動物との関わりを理解する)
6回目	人と動物との関わり(実験動物との関わりを理解する)
7回目	日本人と動物との関わり(日本人と家畜の関わりを理解する)
8回目	日本人と動物との関わり(「神道」の動物観を考える)
9回目	日本人と動物との関わり(「仏教」の動物観を考える)
10回目	日本人と動物との関わり(日本の動物観の歴史を理解する)
11回目	日本人と動物との関わり(明治以降の動物観を考える)
12回目	西洋人と動物との関わり(「キリスト教」の動物観を理解する)
13回目	西洋人と動物との関わり(西洋の動物虐待の背景を理解する)
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	西洋人と動物との関わり(虐待から保護へどう変わっていったかを理解する)

準備学習
時間外学
習

評価方法

筆記試験(80%)
授業参加度(20%)

【使用教科書・教材・参考書】 □

動物看護コアテキスト1(ファームプレス)

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物行動学(犬)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	坂本 憲生
	(Science of Animal Behaviour)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期(2Q)
専攻名	ドッグマスター専攻					曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】

人と犬が共生していくうえで求められる躰の基本について、その必要性とトレーニング理論を講義を通じドッグトレーナーから学ぶ。
【授業内容の関連性の都合で、動物行動学(猫)の内容を織り交ぜながら進めていく。】

※実務経験者

動物施設でキーパーとして仕事をしたのち、ドッグトレーナーに。現在に至る。

【到達目標】

犬の習性や行動特性を説明できる。
基本的なトレーニング理論を説明できる。

授業計画・内容

1回目	しつけ・トレーニングの基本学習理論: 古典的条件付け・オペラント条件付け・反応形成
2回目	ケージ(クレート)トレーニング トイレトレーニング
3回目	基本的なコマンドのトレーニング パピークラスとパピーパーティー しつけ・トレーニングに利用する道具
4回目	問題行動総論: 問題行動の定義・行動治療の進め方・問題行動に関連する因子
5回目	行動療法の方法: 環境操作・行動修正法・薬物療法・その他の治療法
6回目	犬の問題行動: 攻撃行動・分離不安・雷恐怖症
7回目	犬の問題行動: 不適切な場所での排泄行動・常同障害・高齢性認知機能不全
8回目	評価及び振り返り
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
時間外学習

前もってプリントを配った時は目を通しておくこと。
空白(問題)があり場合は授業までに解くように。

評価方法

中間評価(40%)
期末評価(60%)
但し、出席率は別とする
※伴侶動物学(犬学)と動物行動学(犬)と一緒に評価試験を実施します

【使用教科書・教材・参考書】 □

動物看護コアテキスト4(ファームプレス)

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物行動学(猫) (Science of Animal Behaviour)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	石本 美樹
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期(4Q)
						曜日・時限	水曜日2時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>猫は犬と同じように人にとって身近な動物ではあるが、様々な点で猫特有の性質を持っている。この授業では、猫の習性から見られる行動特性を学び、猫という動物について理解し、正しい知識を得ることを目標とする。 【授業内容の関連性の都合で、伴侶動物学(猫学)の内容を織り交ぜながら進めていく。】</p> <p>※実務経験者 サンフラワーキャットクラブ理事 アビシニアン、ペルシャのブリーダーを経てペットシッターやキャットトレーナーなど猫と人の豊かな生活を支援する活動をおこなう</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>ネコの行動特性を説明できる</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	ネコの狩り・遊びについて
2回目	仔育て (出産育仔中の行動)、排卵、発情
3回目	テリトリー・マーキングについて
4回目	体(平均的な体格と寿命)
5回目	歯の特徴 食べ方について
6回目	目・鼻・耳・被毛について
7回目	評価及び振り返り
8回目	運動性・筋肉・骨格について 振り返り
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	筆記試験 85% 授業内評価 15% ※受講態度・あいさつ・積極的な発言を評価 伴侶動物学(猫学)と動物行動学(猫)は一緒に評価試験を実施します
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>猫の教科書(緑書房) 動物看護コアテキスト4(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	伴侶動物学(大学)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	坂本 憲生
	(Companion Animal Sciences)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期(1Q)
専攻名	ドッグマスター専攻					曜日・時限	木曜日4時限

【授業の学習内容】

動物病院では多くの犬に接していく。そのため、犬の看護や飼育者へのアドバイスをおこなうにはその基本的行動様式を理解しておく必要がある。この科目では犬の起源や生態を知り習性の理解につなげていくために学ぶ。
【授業内容の関連性の都合で、動物行動学(猫)の内容を織り交ぜながら進めていきます。】

※実務経験者

動物施設でキーパーとして仕事をしたのち、ドッグトレーナーに。現在に至る。

【到達目標】

犬の発生起源と生態・歴史を説明できる。
 犬の成長発達段階における特徴を説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	犬学・行動学概論：犬の家畜化(起源と歴史)・犬種の作出・犬種と行動変化
2回目	DVD視聴(ディスカバリーチャンネル イヌ)
3回目	行動の発現と機序：行動の動機づけ
4回目	行動の発達：胎生期～高齢期 犬の維持行動：摂食・捕食行動
5回目	犬の維持行動：排泄・休息・グルーミング行動 犬の性行動 犬の社会行動：視覚を利用したコミュニケーション
6回目	犬の社会行動：聴覚・嗅覚を利用したコミュニケーション、親和行動と攻撃行動
7回目	しつけ・トレーニングの基本学習理論：馴化・感作と脱感作
8回目	評価及び振り返り
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	前もってプリントを配った時は目を通しておくこと。 空白(問題)がある場合は授業までに解くように。
評価方法	中間評価(40%) 期末評価(60%) 但し、出席率は別とする ※伴侶動物学(大学)と動物行動学(犬)と一緒に評価試験を実施します
【使用教科書・教材・参考書】 □	
動物看護コアテキスト4(ファームプレス)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	伴侶動物学(犬種標準) (Companion Animal Sciences)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	間 美加
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日2時限

【授業の学習内容】

犬は人との生活の中で様々な用途に合わせ品種改良されてきた。そのため各品種ごとに特徴があり、その特徴を理解したうえで接していく必要がある。この授業では各品種について、JKC全犬種標準書をもとに学ぶ。

※実務経験者

犬種の特徴を活かしたスポーツドッグの育成・トレーニングに長く携わる講師

【到達目標】

JKCにおける10グループ分類と各グループの代表的な犬種を説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	犬の歴史、犬の用途(進化、品種改良について)
2回目	JKC犬種図鑑の見方、グループ分けの説明
3回目	第1グループ シェパード犬種
4回目	第1グループ キャトルドッグ
5回目	第2グループ ピンシャー、シュナウザー、モロシアン
6回目	第2グループ スイスマウンテンドッグ
7回目	第3グループ～第4グループ 狩猟犬の用途
8回目	第5グループ 日本犬種～その他 スピッツ系
9回目	第6グループ～第7グループ 狩猟犬としての特徴
10回目	第8グループ レトリバー
11回目	第10グループ サイトハウンド人気犬種 紹介
12回目	第9グループ 愛玩犬の歴史、人気犬種の特徴と紹介
13回目	第1～10 おさらい
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	非公認犬種の紹介
準備学習 時間外学習	
評価方法	筆記試験: 70% 授業参加度: 30%
【使用教科書・教材・参考書】 □	
最新犬種図鑑(インターズー)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	伴侶動物学(猫学) (Companion Animal Sciences)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	石本 美樹
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	後期(3Q) 水曜日2時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>猫は犬と同じように人にとって身近な動物ではあるが、様々な点で猫特有の性質を持っている。この授業では、猫の歴史・習性を中心に学び、猫という動物について理解し、正しい知識を得ることを目標とする。 【授業内容の関連性の都合で、動物行動学(猫)の内容を織り交ぜながら進めていきます。】</p> <p>※実務経験者 サンフラワーキャットクラブ理事。アビシニアン、ペルシヤのブリーダーを経てペットシッターやキャットトレーナーなど猫と人の豊かな生活を支援する活動をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <p>犬と猫の習性の違いを説明できる。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	自己紹介 講義の進め方 猫のイメージって何？
2回目	猫の歴史・進化・分類
3回目	猫のルーツ・古代エジプト～ ・リビアヤネコについて
4回目	神格化されたネコと暗黒時代（エジプト～ヨーロッパ） 世界への拡大）
5回目	日本ネコのルーツ （縄文～平安時代～鎌倉時代）
6回目	日本ネコのルーツ （江戸時代～現代） 日本のキャットショーの歴史
7回目	ネコの習慣と行動 ※1Wの猫のイメージから発展させる 特徴(ツンデレ・なつきにくい・単独→飼い主の存在)
8回目	評価及び振り返り
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	筆記試験 85% 授業内評価 15% ※受講態度・あいさつ・積極的な発言を評価 伴侶動物学(猫学)と動物行動学(猫)と一緒に評価試験を実施します
【使用教科書・教材・参考書】 □	
猫の教科書(緑書房) 動物看護コアテキスト4(ファームプレス)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物内科看護学演習 (Practice of Animal Nursing (Internd Medicine))	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	森若 賢子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1・2時限
<p>【授業の学習内容】 傷病動物の看護を行うには対象となる動物の状態を正確に把握するための観察力が求められる。また、診療補助を行う際には動物を適切に保定するとともに医療機器を適切に取り扱わなければならない。この科目では、臨床で必要となる観察力や看護法に関わる基本的な手技を身に付ける。</p> <p>※実務経験者 福岡県内動物病院に勤務後、動物看護師育成に携わる。動物看護師統一認定機構認定動物看護師。</p>							
<p>【到達目標】 動物のバイタルチェックができる。 動物の状態を言葉で表現できる。 処置に合わせた保定を考えることができる。 薬剤投与の準備ができる。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	身体一般検査
3回目	身体一般検査
4回目	身体一般検査
5回目	保定
6回目	保定
7回目	保定
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	投薬法
10回目	投薬法
11回目	投薬法
12回目	投薬法
13回目	投薬法
14回目	前期末評価及び振り返り
15回目	前期復習
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な解剖の予習が必要 ・犬種による気質の予習が必要
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テスト: 30%(内訳:筆記60% 実技40%) ・学期末テスト: 70%(内訳:筆記60% 実技40%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト5(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物内科看護学演習 (Practice of Animal Nursing (Internd Medicine))	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	森若 賢子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜日1・2時限
<p>【授業の学習内容】 傷病動物の看護を行うには対象となる動物の状態を正確に把握するための観察力が求められる。また、診療補助を行う際には動物を適切に保定するとともに医療機器を適切に取り扱わなければならない。この科目では、臨床で必要となる観察力や看護法に関わる基本的な手技を身に付ける。</p> <p>※実務経験者 福岡県内動物病院に勤務後、動物看護師育成に携わる。動物看護師統一認定機構認定動物看護師。</p>							
<p>【到達目標】 動物のバイタルチェックができる。 動物の状態を言葉で表現できる。 処置に合わせた保定を考えることができる。 薬剤投与の準備ができる。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	輸液法
2回目	輸液法
3回目	輸液法
4回目	輸液法
5回目	輸液法
6回目	輸液法
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	輸液法
9回目	輸液法
10回目	輸液法
11回目	輸液法
12回目	輸液法
13回目	輸液法
14回目	後期末評価及び振り返り
15回目	総復習
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学に加え、生理学の基本的な予習が必要 ・衛生学についての理解も必要(輸液を行うにあたって) ・輸液を行うにあたっての保定法の復習も必要
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テスト:30%(内訳:筆記60% 実技40%) ・学期末テスト:70%(内訳:筆記60% 実技40%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト5(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	グルーミング概論 (Introduction to Basic Grooming)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	寺田 光徳
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日1時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>犬の健康維持促進のためには犬自体を清潔に保つ必要がある。この科目では犬のグルーミングを行う目的や効果を理解し、実践する際に共通認識として把握しておくべき用語を学ぶことを目的とする</p> <p>※実務経験者 JKC九州ハンドラー委員会委員長 JKC福岡県連合会幹事長を務め、ドッグショーの審査、及び20年以上講師を勤める動物専門学校にて後進の指導を行い、フレンチブルドッグを専門に繁殖。ショーに参加して犬質の向上に尽力している。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>グルーミングの目的を説明できる。 犬体各部位名称を言える。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	畜犬団体・スタンダードについて
2回目	グルーミングの目的
3回目	ブリーディング
4回目	犬の飼育方法
5回目	犬の飼育方法
6回目	グルーミング用品
7回目	被毛の構造
8回目	シャンプー剤の基礎知識
9回目	小型犬のペイシング
10回目	小型犬のペイシング
11回目	ゴールデンレトリバーのグルーミング
12回目	グルーマーの獣医学
13回目	復習
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	グルーマーの基本
準備学習 時間外学 習	
評価方法	筆記試験(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	グルーミング演習 (Practice of Basing Grooming)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜日3・4時限

【授業の学習内容】

犬の基本的なお手入れ方法を実際のモデル犬を使って学び、犬種別のグルーミングを理解します。また、マネキンを使い基本的なカットやシザーワークを学びます。

※実務経験：JKCトリマーライセンスA級取得。
福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校での講師として勤務。

【到達目標】

90分で基本的なグルーミングが出来るようになる。(グルーミング検定B級合格)
カットの基本からラッピング、ペットクリップが出来るようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション
2回目	デモンストレーション 爪、耳ブラシ
3回目	デモンストレーション シャンプー、ブロー
4回目	チワワ 1頭デモ キャットフット バリカン
5回目	ウイックとき マネキン
6回目	ウイックとき 足回りテディ
7回目	チワワ (2人1頭)
8回目	マルチーズ1頭デモンストレーション
9回目	ヨークシャーテリア1頭デモンストレーション
10回目	中型犬 犬種説明 2人1頭
11回目	大型犬 犬種説明 3~4人1頭
12回目	小型犬 2人1頭
13回目	中型犬 犬種説明 2人1頭
14回目	大型犬 犬種説明 3~4人1頭
15回目	小型、中型、大型犬 ベイシング
準備学習 時間外学習	JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)
評価方法	授業内評価 レポート提出20点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:20点 時間管理:20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	
JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	グルーミング演習 (Practice of Basing Grooming)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日3・4時限

【授業の学習内容】

犬の基本的なお手入れ方法を実際のモデル犬を使って学び、犬種別のグルーミングを理解します。また、マネキンを使い基本的なカットやシザーワークを学びます。

※実務経験：JKCトリマーライセンスA級取得。
福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校講師として勤務。

【到達目標】

90分で基本的なグルーミングが出来るようになる。(グルーミング検定B級合格)
カットの基本からラッピング、ペットクリップが出来るようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション
2回目	プードル 爪、耳、ブラッシング
3回目	プードル シャンプー、ブロー
4回目	チワワ2人1頭
5回目	ウイック チッピング半分カット
6回目	マネキン 足回りカット
7回目	ダックス 2人1頭
8回目	マルチーズ 2人1頭
9回目	ヨークシャーテリア 2人1頭
10回目	短吻犬 2人1頭
11回目	マルチーズ ヨーキー 2人1頭
12回目	マネキン解き
13回目	プードル
14回目	プードル マルチーズ ヨーキー 2人1頭
15回目	プー ラムクリップ ブロー バリカン
準備学習 時間外学習	JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)
評価方法	授業内評価 レポート提出20点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:20点 時間管理:20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	
JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング理論 (Theory of Grooming)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	寺田 光徳
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日1時限

【授業の学習内容】

犬の基本的なお手入れと犬種別のグルーミングの確認をしながら、基本的なカットやシザーワークを学び、多様なカットの技法を学びます。

※実務経験者

JKC九州ハンドラー委員会委員長。JKC福岡県連合会幹事長を務め、ドッグショーの審査及び20年以上講師を勤める動物専門学校にて後進の指導を行い、フレンチブルドッグを専門に繁殖。ショーに参加して犬質の向上に尽力している。

【到達目標】

トリミング犬種の犬種別カットの特徴を学びます。道具の理解と犬種別の特徴を理解する。座学を中心に、犬種標準図鑑などから犬種別カットを覚えます。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	犬の体の仕組み (1年の復習から)
2回目	グルーマー獣医学
3回目	トリマーの基本
4回目	スキばさみ、ナイフの解説
5回目	クリッパー、爪切り、ヤスリ等 アメリカンコッカー・シニング犬種の解説(前半)
6回目	アメリカンコッカー・シニング犬種の解説(後半)
7回目	アメリカンコッカー・スプリンガー・スパニエル解説
8回目	ミニチュアシュナウザーの解説
9回目	エアデールテリアのトリミング解説
10回目	ノーフォークランドテリアの解説
11回目	スコティッシュテリア・シーリハムの解説
12回目	ウェスティーの解説
13回目	前期の復習
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	ベトリントンテリアのトリミング
準備学習 時間外学習	
評価方法	中間評価: 40点 期末評価: 60点

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習 I (Practice of Dog training I)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナーとして、人と犬が互いに幸せに人間社会で暮らす為のしつけを学ぶ事が必要である。この授業では、家庭犬トレーナー(インストラクター)として必要な基礎知識や犬を扱うスキル(リードや報酬の使い方、コマンドの出し方、犬に対する観察力等)を学ぶために、ドッグトレーナーから指導を受け学内飼育犬での実践を行う。
また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。

※実務経験者

犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター

【到達目標】

一般の愛犬家からのニーズが高まっている犬に優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる
トレーニングの実践だけでなく、犬の学習におけるプロセスを理解した上で行えるようになる

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション(授業内容の説明等)と基礎講座(犬のしつけとその必要性) ㊟可能であればWanLifeの犬を連れてのデモンストレーション
2回目	基礎講座:犬の行動と習性 報酬について 実技:リードの扱い方・フードの使い方(デリバリー) ※学内飼育犬は不要
3回目	実技:褒める(報酬) リードの管理 犬の扱い方 犬と遊ぶ
4回目	実技:リードの管理 犬と遊ぶ ハンドリング基礎(ターゲティング)
5回目	講座:犬の行動学 犬のサイン(犬語力)を知る 実技:犬の気持ちを体験 グループミーティング ※学内飼育犬は不要
6回目	実技:犬に分かりやすく伝えるためのトレーニング① 犬のサインを知る
7回目	筆記テスト(犬のサイン)/実技テスト(人のみで行う実技 リードの扱い・フードの扱い)
8回目	実技:アテンション(刺激) 犬との遊び-犬の待機 (座学含む)
9回目	実技:ハンドリング(お座り・伏せ) 各姿勢の維持と解除 犬との遊び-犬の待機
10回目	実技:リードをたるませた状態で犬と歩く ステップアップ 刺激付
11回目	実技:総復習(犬の観察・褒め方・リードの管理・ハンドリング・各指示の正確性)
12回目	講座:学習理論① トレーニングをするにあたっての犬の観察 実技:犬に分かりやすく伝える為のトレーニング① グループミーティング ※学内飼育犬は不要
13回目	講座:学習理論② 犬のトレーニング学-色んなトレーニング方法(バックチェイニング等) 実技:犬に分かりやすく伝える為のトレーニング② グループミーティング ※学内飼育犬は不要
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	マナーチャレンジに向けてのガイダンス

準備学習
時間外学習

評価方法

授業参加度:30%
期末試験(筆記):70%

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニング演習 I (Practice of Dog training I)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナーとして、人と犬が互いに幸せに人間社会で暮らす為のしつけを学ぶ事が必要である。この授業では、家庭犬トレーナー(インストラクター)として必要な基礎知識や犬を扱うスキル(リードや報酬の使い方、コマンドの出し方、犬に対する観察力等)を学ぶために、ドッグトレーナーから指導を受け学内飼育犬での実践を行う。
また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。

※実務経験者

犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター

【到達目標】

一般の愛犬家からのニーズが高まっている犬に優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる
トレーニングの実践だけでなく、犬の学習におけるプロセスを理解した上で行えるようになる

授業計画・内容

1回目	実技:ヒールポジション ヒールウォーク(脚側歩行)
2回目	実技:お座り・待て (4D)
3回目	講座:学習理論③実技:犬の観察(動画) グループミーティング ※学内飼育犬は不要
4回目	実技:ヒールウォーク ケア(顔回り・体をさわる・抱っこ等)
5回目	実技:足元待機(伏せた状態で1分) 犬との遊び①
6回目	講座:学習理論④実技:犬の観察(動画) グループミーティング ※学内飼育犬は不要
7回目	マナーチャレンジテストの練習(テスト会場をセッティング)
8回目	実技:アテンション(注目)と解除 刺激に慣れる(周りの物や音・人の挨拶等)
9回目	実技:ハンドリング ケア(足ふき・ブラッシング・顔周りのケア・歯磨き等) 犬との遊び②
10回目	実技:呼び戻し
11回目	講座:学習理論⑤実技:グループミーティング ※学内飼育犬は不要
12回目	マナーチャレンジテストの練習(テスト会場をセッティング)
13回目	マナーチャレンジテストの練習(テスト会場をセッティング)
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	講座:応用行動分析学基礎① 実技:グループミーティング ※学内飼育犬は不要

準備学習
時間外学習

評価方法

授業参加度:30%
期末試験(実技):70%

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物介在活動演習 (Practice of Animal Assisted Activity)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	佐藤良治(福岡動物医療センター) 川島秀樹 (Pet & Goods Shop Orion)
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜日3・4時限(不定期)

【授業の学習内容】

「動物人間関係学」講師の川島秀樹先生が代表である「Pet & Goods Shop Orion(オリオン)」のアニマルセラピー活動に参加協力の下、養護老人ホーム及び障がい者施設へのふれあい活動を実体験する。また、この活動を通して2年次の「セラピー犬トレーニング」の授業へ考え方からトレーニング方法の一部にもつなげていく。ふれあい活動の地力の向上を図る。また、福岡動物医療センター院長佐藤良治先生のCAPP活動についての講義を受け、アニマルセラピー活動の歴史を学び、演習に参加する。

※実務経験者

佐藤良治:株式会社福岡動物医療センターグループ代表取締役院長。獣医学博士。動物病院協会(JAHA)元理事。

川島秀樹:Pet & Goods Shop Orion代表。2003年よりペットショップ開業・経営～現在に至る。2001年より日本FP協会所属のファイナンシャルプランナーとしても活動する講師が授業を行う。

【到達目標】

AAA (Animal Assisted Activity)動物介在活動・AAT (Animal Assisted Therapy)動物介在療法・AAE (Animal Assisted Education)動物介在教育と幅広い活動を学び、演習では、ふれあい活動を中心に社会貢献と共に近い将来、指導者としての役割を担える人材を目指す。養護老人ホーム及び障がい者施設へのふれあい活動を実体験する。また、この活動を通して2年次の「セラピー犬トレーニング」の授業へ考え方からトレーニング方法の一部にもつなげていく。ふれあい活動の地力の向上を図る。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション・・・AAA (Animal Assisted Activity) 動物介在活動について
2回目	オリエンテーション・・・AAT (Animal Assisted Therapy) 動物介在療法 AAE (Animal Assisted Education) 動物介在教育
3回目	動物人間関係学の実践として、養護老人ホームでのアニマルセラピー(フランソレイユ笹丘)
4回目	動物人間関係学の実践として、養護老人ホームでのアニマルセラピー(フェリオ天神)
5回目	動物人間関係学の実践として、養護老人ホームでのアニマルセラピー(フェリオ百道)
6回目	動物人間関係学の実践として、養護老人ホームでのアニマルセラピー(フランソレイユ笹丘)
7回目	動物人間関係学の実践として、養護老人ホームでのアニマルセラピー(フェリオ天神)
8回目	動物人間関係学の実践として、養護老人ホームでのアニマルセラピー(フェリオ百道)
9回目	動物人間関係学の実践として、障がい者フレンドホームでのアニマルセラピー(城南障がい者フレンドホーム)
10回目	セラピー犬を育てるには
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	活動内容のレポートによる評価(100%)

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	人と動物のふれあい活動 (Companion Animal Partnership Program)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤良治(福岡動物医療センター)
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	不定期
						曜日・時限	木曜日3・4時限(不定期)

【授業の学習内容】

企業課題CAPP活動を通して、実際に養護老人ホーム及びデイサービス施設、障がい者施設を訪問し、動物介在活動について、学校飼育犬を使つての介在活動の実践。

※実務経験者

佐藤良治 株式会社福岡動物医療センターグループ代表取締役院長。獣医学博士。動物病院協会(JAHA)元理事。

【到達目標】

人と動物のふれあい活動は、目的により次の3つの活動に分けられます。

①AAA (Animal Assisted Activity) 動物介在活動。

②AAT (Animal Assisted Therapy) 動物介在療法。

③AAE (Animal Assisted Education) 動物介在教育。

この演習では、動物とふれあうことによる情緒的な安定、レクリエーション・QOLの向上などを主な目的としたふれあい活動を中心に社会貢献と共に近い将来、指導者としての役割を担える人材を目指す。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション……今後の活動予定。アニマルセラピー・CAPP活動の復習と活動時の注意点
2回目	オリエンテーション……CAPP活動と福岡動物医療センター(JAHA動物病院協会)の企業課題の取り組み
3回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(むさし苑)
4回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(デイサービスセンター南風)
5回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(むさし苑)
6回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(デイサービスセンター南風)
7回目	福岡動物医療センターCAPP活動として障がい者フレンドホームでの演習(東障がい者フレンドホーム)
8回目	福岡動物医療センターCAPP活動として養護老人ホームでの演習(むさし苑)
9回目	福岡動物医療センターCAPP活動として障がい者フレンドホームでの演習(東障がい者フレンドホーム)
10回目	振り返り/ボランティア活動としての社会貢献とペットビジネスとしての社会貢献/満足度を上げるための取り組み
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
時間外学習

評価方法

活動内容のレポートによる評価(100%)

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物医療コミュニケーション (Communication Skills)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	井上 幸子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日3・4時限(不定期)

【授業の学習内容】

コミュニケーションスキルアップ検定合格を目指すために、コミュニケーションの基礎を学ぶ。コミュニケーションの基礎・取り方・話し方など

※実務経験者

医療事務として、総合病院などにて受付など行う、その後、新人の医療事務員の指導にも携わる。経験を生かし、専門学校の講師としても従事。歯科衛生士の資格も取り、また、犬のデンタルケアアドバイザーとして、犬のケア・飼い主のケアにも取り組んでいる

【到達目標】

コミュニケーションスキルアップ検定の合格。及びコミュニケーションの基礎を身につける

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	オリエンテーション・コミュニケーションの定義と領域
2回目	コミュニケーションの種類。正しい挨拶の基本 あいさつとコミュニケーションの関わり
3回目	基本的対話スキル ① プロセス・聞くの基本、質問の仕方
4回目	” ② 話す基本、気持ちや考え方の交換
5回目	自己表現スキル ① 挨拶、自己紹介、相手との関係を深める
6回目	” ② 上手な頼み方、断り方、自己主張の仕方
7回目	” ③ 仕事の基本、話すをわかりやすく伝える方法、交渉、説得
8回目	” ④ プレゼンテーション、アンガーマネジメント
9回目	社会的対話スキル ① 敬語の重要性、使い方
10回目	” ② 電話対応(固定電話・携帯電話) 、接客、接遇
11回目	” ③ 訪問の仕方、謝罪 ④ 文書
12回目	動物病院でのコミュニケーション 心構え
13回目	視覚的印象の重要性 良いイメージを提供する
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学習	
評価方法	筆記テスト(100%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>コミュニケーションスキルアップ検定テキスト</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物医療コミュニケーション (Communication Skills)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	井上 幸子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

コミュニケーションスキルアップ検定合格を目指すために、コミュニケーションの基礎を学ぶ。コミュニケーションの基礎・取り方・話し方など

※実務経験者

医療事務として、総合病院などにて受付など行う、その後、新人の医療事務員の指導にも携わる。経験を生かし、専門学校の講師としても従事。歯科衛生士の資格も取り、また、犬のデンタルケアアドバイザーとして、犬のケア・飼い主のケアにも取り組んでいる

【到達目標】

コミュニケーションスキルアップ検定の合格。及びコミュニケーションの基礎を身につける

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	後期の授業内容の説明・前期復習・コミュニケーションとは
2回目	飼い主さんとのコミュニケーション 飼い主という人間を理解する
3回目	” 飼い主さんへの話し方・言葉の選び方
4回目	” ①待合室でのコミュニケーション (精算時も含む) ロールプレイング
5回目	” ②診察室でのコミュニケーション ロールプレイング
6回目	” ③電話での予約などの対応
7回目	先生、医療スタッフ間とのコミュニケーション 指示・報告・連絡・相談
8回目	クレーム処理 不快感情の飼い主さんの対応
9回目	コミュニケーション過去問題による学習・振り返り
10回目	コミュニケーション過去問題による学習・振り返り
11回目	グリーフケアとは
12回目	飼い主の方へのケアの仕方 声掛けの仕方 ロールプレイング
13回目	後期全体を通しての実践学習・まとめ
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	1年間のまとめ
準備学習 時間外学 習	
評価方法	筆記テスト(100%)
【使用教科書・教材・参考書】 □	
飼い主さんとのコミュニケーション講座 テキスト	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニングⅡ (Practice of Dog training Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日5時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナー(インストラクター)として飼い主からの信頼を得るためには、トレーニングに関わる試験への取り組みやセミナー等への参加による広い視野を持つことが重要である。この授業では実際に行われている検定試験の項目に沿ったトレーニングやケア、ハンドラーとしての身のこなしをドッグトレーナーから学び、学内飼育犬と共に実践する。

また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。

※実務経験者

犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター

【到達目標】

マナーハンドラーテストの項目を理解し、自身の課題を発見・改善する事で合格相当の力を身に付ける

犬の学習のプロセスへの理解を深め、それを応用したクリックートレーニングを実践できるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	講座:マナーハンドラーテスト 受験ガイダンス マニュアル ルール
2回目	実技:マナーハンドラーテストの内容を実施 体験してできない所をチェック
3回目	座学:前回の出来ていない所を改善していくために必要な知識とスキル
4回目	実技:アテンション(注目) ヒールポジション 維持 解除
5回目	実技:ヒールウォーク 犬との遊び リラックス(足元待機)
6回目	実技:ヒールウォーク(ステップアップ) 刺激(4D)に慣れる
7回目	座学:学習理論(二次性強化子・クリックャー) ※学内飼育犬は不要
8回目	筆記テスト(前半の復習・クリックャートレーニング)
9回目	実技:クリックャーを使ったトレーニング(ターゲティング)
10回目	実技:お座り(伏せ)待て 合図化 ケア
11回目	実技:呼び戻し リラックス(足元待機)
12回目	座学:前期で出来ている事と出来ていない所の振り返りと改善
13回目	実技:テスト前の復習
14回目	マナーハンドラーテスト 模擬(どこまで出来ているかのチェック)
15回目	座学:前回の出来ていない所の改善・改善する為に必要な知識とスキル

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験:70%
授業参加度:30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニングⅡ (Practice of Dog training Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	金川 英樹
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜日5時限

【授業の学習内容】

ドッグトレーナー(インストラクター)として飼い主からの信頼を得るためには、トレーニングに関わる試験への取り組みやセミナー等への参加による広い視野を持つことが重要である。この授業では実際に行われている検定試験の項目に沿ったトレーニングやケア、ハンドラーとしての身のこなしをドッグトレーナーから学び、学内飼育犬と共に実践する。

また、要所において振り返りや意見交換を行い、自分自身の課題を見つけるきっかけとする。

※実務経験者

犬のしつけ教室・幼稚園を運営する、JAHA認定の家庭犬しつけインストラクター

【到達目標】

マナーハンドラーテストの項目を理解し、自身の課題を発見・改善する事で合格相当の力を身に付ける

犬の学習のプロセスへの理解を深め、それを応用したクリックートレーニングを実践できるようになる

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	実技:step①ケア(足拭き・ブラッシング) クレートトレーニング 犬との遊び
2回目	実技:step②ケア(足拭き・ブラッシング) 犬とのすれ違い 犬との遊び
3回目	座学:マナーハンドラーテストの準備 学習理論③
4回目	実技:step①クリックートレーニング トリック 足元待機
5回目	実技:step②クリックートレーニング トリック 足元待機
6回目	実技:step③クリックートレーニング トリック 足元待機
7回目	実技:これまでに学んだ事のチェックテスト ケア クリッカー トリック 足元待機
8回目	実技:マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
9回目	実技:マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
10回目	実技:マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
11回目	座学:応用行動分析学
12回目	実技:マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
13回目	実技:マナーハンドラーテストの練習(実際のテスト会場のセッティングにて)
14回目	マナーハンドラーテスト
15回目	振り返り

準備学習
時間外学習

評価方法

実技試験:70%
授業参加度:30%

【使用教科書・教材・参考書】 □

プリント配布

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニングⅢ (Dog Training Ⅲ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	桜井 恭子
専攻名	ドッグトレーナー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日3時限

【授業の学習内容】

高齢化が進む現代において、セラピー犬が人にもたらす影響は注目されている。この授業ではアニマルセラピーを通じて人にもたらされる心理的、社会的な影響を理解し、セラピードッグの育成や訓練の手法を補助犬訓練士でありセラピー犬活動も行う講師から学び、実践する。

※実務経験者

NPO法人九州補助犬協会の理事を務める。施設を訪問してのでのセラピー犬活動にも精力的に取り組む講師が授業を実施する。

【到達目標】

- ・アニマルセラピーのもたらす効果を理解し、以下の実践において考慮できるようになる
- ・セラピードッグのハンドラーとして、適切な犬への指示や行動への対処ができるようになる
- ・高齢者に向けたふれあいやレクリエーション現場で体感する(コミュニケーションの実践)

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	自己紹介 セラピー犬トレーニング講義内容、活動全般 自己紹介
2回目	人と犬の歴史
3回目	犬の病気とワクチネーション
4回目	人獣共通伝染病
5回目	ヒューマンアニマルボンド
6回目	セラピー犬活動の種類
7回目	中間評価及び振り返り DVD鑑賞
8回目	施設の種類と利用者の特徴
9回目	対象者とのコミュニケーション
10回目	トレーニングとは
11回目	犬とのコミュニケーション
12回目	トレーニングとは
13回目	服従訓練
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	セラピー犬活動見学

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験: 60%
実技試験: 20%
レポート: 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	ドッグトレーニングⅢ	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	桜井 恭子
	(Dog Training Ⅲ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグトレーナー専攻			曜日・時限	水曜日3時限		

【授業の学習内容】

高齢化が進む現代において、セラピー犬が人にもたらす影響は注目されている。この授業ではアニマルセラピーを通じて人にもたらされる心理的、社会的な影響を理解し、セラピー犬の育成や訓練の手法を補助犬訓練士でありセラピー犬活動も行う講師から学び、実践する。

※実務経験者

NPO法人九州補助犬協会の理事を務める。施設を訪問してのでのセラピー犬活動にも精力的に取り組む講師が授業を実施する。

【到達目標】

- ・アニマルセラピーのもたらす効果を理解し、以下の実践において考慮できるようになる
- ・セラピー犬のハンドラーとして、適切な犬への指示や行動への対処ができるようになる
- ・高齢者に向けたふれあいやレクリエーション現場で体感する(コミュニケーションの実践)

授業計画・内容

1回目	活動時の注意 服装 持参品など
2回目	セラピー犬のトレーニング アジリティ器具を使用する
3回目	施設内でのセラピー犬のトレーニング
4回目	屋外でのセラピー犬のトレーニング
5回目	アトラクションを実際に訓練する
6回目	セラピー犬の活動のロールプレイ
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	セラピー犬の適性評価
9回目	コミュニケーションのテスト
10回目	セラピー犬のテスト
11回目	セラピー犬活動実施計画の策定
12回目	セラピー犬の活動実施
13回目	セラピー犬の活動実施
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	活動ふりかえり

準備学習
時間外学習

評価方法

筆記試験: 60%
実技試験: 20%
レポート: 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物繁殖学/幼齢動物管理 <small>(Animal Theriogenology/Management of Young Animals)</small>	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	月時 加寿子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日3時限

【授業の学習内容】

動物の周産期看護のためには、その動物の生殖や新生仔への対応に関する知識が必要となる。この科目では犬猫を中心に、生殖器・性行動・妊娠・分娩・産褥期、新生仔期に必要なケアについて学んでいく。

※実務経験者

獣医師免許を取得した後、国際協力団体で家畜飼育に関わる。産業動物診療に従事した経験を有する。

【到達目標】

犬猫の生殖器の解剖学的特徴と生理機能を説明できる。
動物種ごとの胎盤形状の違いを説明できる。
犬猫の発情～分娩までの流れを説明できる。
出生後の新生仔のケアを説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	繁殖とは
2回目	雌犬の生殖器①
3回目	雌犬の生殖器②
4回目	雄犬の生殖器①
5回目	雄犬の生殖器②
6回目	発情周期①
7回目	中間評価および振り返り
8回目	発情周期②
9回目	ホルモン① 内分泌系について
10回目	ホルモン② 生殖に関わるホルモン(メス)
11回目	ホルモン③ 生殖に関わるホルモン(オス)
12回目	交尾・精液・精子
13回目	受精・着床・胎盤・さい帯
14回目	前期末評価および振り返り
15回目	復習
準備学習 時間外学習	形態機能学分野における生殖器系、内分泌系について復習しておくこと。
評価方法	中間試験:40% 期末試験:40% 平常点:20% 平常点は受講態度および出席状況などで評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 □	
動物看護コアテキスト2(ファームプレス) 動物看護コアテキスト6(ファームプレス)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物疾病看護学(動物繁殖学) (Pathophysiology of Animalz (Animal Theriogenology))	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	月時 加寿子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日3時限

【授業の学習内容】

動物の周産期看護のためには、その動物の生殖や新生仔への対応に関する知識が必要となる。この科目では犬猫を中心に、生殖器・性行動・妊娠・分娩・産褥期、新生仔期に必要なケアについて学んでいく。

※実務経験者

獣医師免許を取得した後、国際協力団体が家畜飼育に関わる。産業動物診療に従事した経験を有する。

【到達目標】

犬猫の生殖器の解剖学的特徴と生理機能を説明できる。
動物種ごとの胎盤形状の違いを説明できる。
犬猫の発情～分娩までの流れを説明できる。
出生後の新生仔のケアを説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	妊娠・分娩・陣痛・胎子
2回目	偽妊娠・流産・死産・早産・分娩の補助
3回目	難産・胎子の失位・流産の原因・先天異常
4回目	新生子に起こりやすい病気・初乳
5回目	出産後の母犬に起こりやすい病気
6回目	免疫について
7回目	中間評価および振り返り
8回目	ネコの繁殖行動① 生殖器
9回目	ネコの繁殖行動② 発情周期
10回目	ネコの繁殖行動③ 周産期疾病
11回目	その他の動物の繁殖
12回目	その他の動物の繁殖
13回目	その他の動物の繁殖
14回目	後期末評価および振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	形態機能学分野における生殖器系、内分泌系について復習しておくこと。
評価方法	中間試験:40% 期末試験:40% 平常点:20% 平常点は受講態度および出席状況などで評価する。
【使用教科書・教材・参考書】 □	
動物看護コアテキスト2(ファームプレス) 動物看護コアテキスト6(ファームプレス)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物病理学/動物疾病看護学 (Veterinary Pathology/Pathophysiology of animals)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	木道 浩子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日1時限・金曜日1・2時限
<p>【授業の学習内容】 傷病動物の看護をおこなうには、その動物の健康を阻害する疾患の原因・症状・治療・予後を把握しておく必要がある。この科目では各器官系ごとの代表的な疾患を学び、疾病別の動物看護に活かしていく。</p> <p>※実務経験者 獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。</p>							
<p>【到達目標】 各疾患の機序と症状を説明できる。 各疾患の検査法・一般的な治療法を説明できる。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業オリエンテーション 皮膚科疾患
2回目	皮膚科疾患
3回目	皮膚科疾患
4回目	皮膚科疾患
5回目	消化器疾患
6回目	消化器疾患
7回目	消化器疾患
8回目	消化器疾患
9回目	消化器疾患
10回目	呼吸器疾患
11回目	呼吸器疾患
12回目	呼吸器疾患
13回目	循環器疾患
14回目	循環器疾患
15回目	循環器疾患 評価及び振り返り
準備学習 時間外学習	毎授業ごとに次回授業に該当するテキストのページを告知します。熟読のうえ授業に参加してください。 また、小テストに向けて各自復習をしてください。
評価方法	小テスト(40%) 筆記試験(60%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト6(ファームプレス) カラーアトラス最新かわいい犬の病気大図典(誠文堂新光社) カラーアトラス最新かわいい猫の病気大図典(誠文堂新光社)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記) (Veterinary Pathology/Pathophysiology of animals)	動物病理学/動物疾病看護学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	木道 浩子
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

傷病動物の看護をおこなうには、その動物の健康を阻害する疾患の原因・症状・治療・予後を把握しておく必要がある。この科目では各器官系ごとの代表的な疾患を学び、疾病別の動物看護に活かしていく。

※実務経験者

獣医師免許取得後、関東地区の動物病院に所属。平成元年4月よりきどう動物病院にて動物診療補佐に従事。

【到達目標】

各疾患の機序と症状を説明できる。
各疾患の検査法・一般的な治療法を説明できる。

授業計画・内容

1回目	泌尿器疾患
2回目	泌尿器疾患
3回目	生殖器疾患
4回目	生殖器疾患
5回目	眼科疾患
6回目	眼科疾患
7回目	内分泌疾患
8回目	内分泌疾患
9回目	血液疾患
10回目	血液疾患
11回目	脳神経系の疾患
12回目	脳神経系の疾患
13回目	整形外科疾患
14回目	整形外科疾患
15回目	癌 評価及び振り返り
準備学習 時間外学習	毎授業ごとに次回授業に該当するテキストのページを告知します。熟読のうえ授業に参加してください。 また、小テストに向けて各自復習をしてください。
評価方法	小テスト(40%) 筆記試験(60%)
【使用教科書・教材・参考書】 □	
動物看護コアテキスト6(ファームプレス) カラーアトラス最新かわいい犬の病気大図典(誠文堂新光社) カラーアトラス最新かわいい猫の病気大図典(誠文堂新光社)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	犬の行動学 (Study of Dog Behavior)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜日1時限
<p>【授業の学習内容】 犬と関わる職業において、生物としての「犬」とはどのような動物かを考え、理解することが重要。この授業では、イヌ科の動物の特徴やコミュニケーション方法、基本的な行動等の視点から見た犬について学ぶ。</p> <p>※実務経験者 コンパニオンアニマル・アドバイザーとして、飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナースクール、セミナーを開催する講師が授業を実施する。</p>							
<p>【到達目標】 生物分類上の「犬」を理解し説明できる 犬の身体的特徴や感覚機能を理解し説明できる 犬のコミュニケーション方法を理解し説明できる 犬の生活における行動・心理を理解し説明できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	授業内容とすすめ方について説明、自己紹介
2回目	犬とは？(生物分類上の位置付けを理解する)
3回目	犬とは？(生物分類上の位置付けを理解する)
4回目	犬とは？(イエイヌとタイリクオオカミの関係性を理解する)
5回目	犬の生態(体の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
6回目	犬の生態(体の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
7回目	犬の生態(体の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
8回目	犬の生態(「イエイヌ」としての特徴を理解する)
9回目	犬の生態(「イエイヌ」としての特徴を理解する)
10回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
11回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
12回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
13回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
14回目	評価及び振り返り
15回目	犬の生態(感覚機能の特徴を理解する”犬らしさ”を理解する)
準備学習 時間外学習	
評価方法	期末評価(筆記): 80% 授業参加度: 20%
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>この授業を通して”動物のおもしろさ”を伝えたい。もっともっと動物に興味を持って欲しい。</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	犬の行動学 (Study of Dog Behavior)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日1時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>犬と関わる職業において、生物としての「犬」とはどのような動物かを考え、理解することが重要。この授業では、イヌ科の動物の特徴やコミュニケーション方法、基本的な行動等の視点から見た犬について学ぶ。</p> <p>※実務経験者 コンパニオンアニマル・アドバイザーとして、飼い主とその愛犬の暮らしをより豊かなものにする為のカウンセリングやマナースクール、セミナーを開催する講師が授業を実施する。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>生物分類上の「犬」を理解し説明できる 犬の身体的特徴や感覚機能を理解し説明できる 犬のコミュニケーション方法を理解し説明できる 犬の生活における行動・心理を理解し説明できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	犬のコミュニケーション(動物のコミュニケーションの方法)
2回目	犬のコミュニケーション(動物の距離と空間における概念)
3回目	犬のコミュニケーション(犬のコミュニケーションの方法)
4回目	犬のコミュニケーション(犬の声)
5回目	犬のコミュニケーション(犬の表情とボディランゲージ)
6回目	犬のコミュニケーション(犬の表情とボディランゲージ)
7回目	犬のコミュニケーション(カーミング・シグナルとは?)
8回目	犬の行動学(社会的行動)
9回目	犬の行動学(犬の社会構造)
10回目	犬の行動学(犬の社会構造)
11回目	犬の行動学(犬の社会構造)
12回目	犬の行動学(採食行動)
13回目	犬の行動学(性行動)
14回目	犬の行動学(性行動)
15回目	犬の行動学(仔犬の発達行動)
準備学習 時間外学習	
評価方法	期末評価(筆記): 80% 授業参加度: 20%
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>この授業が「ソロモンの指環」になれば嬉しい</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物人間関係学 (Study of Human-Animal Bond)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	川島 秀樹
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

この科目ではHABの概念を基に、動物と人の双方がもたらす効果について学ぶ。また、それらの効果を活かした動物を用いた社会福祉活動について学ぶ。

※実務経験者

2003年よりペットショップ開業・経営～現在に至る。2001年より日本FP協会所属のファイナンシャルプランナーとしても活動する講師が授業を行う。

【到達目標】

動物と人の双方がもたらす心理的・生理的・社会的効果を説明できる。
AAA・AAT・AAEの違いを説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	自己紹介・ガイダンス
2回目	人と動物の関わり方の歴史
3回目	人と動物のHAB研究のはじまり
4回目	人と動物の相互作用
5回目	人と動物の相互作用
6回目	お年寄りとペット
7回目	子どもとペット
8回目	HABの活用
9回目	HABの活用 障害者とペット
10回目	HABの活用 補助犬
11回目	HABの活用 CAPP
12回目	破壊作用 (犬嫌いなひとへのワーク)
13回目	人から動物へのHAB
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	ペットロス・犬を送る
準備学習 時間外学習	
評価方法	筆記試験(期末試験40% 小テスト・レポート30%) 授業内評価(30%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト1(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物福祉論 (Animal Welfare)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	本村 直子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

動物看護師は動物福祉の向上を常に意識する必要がある。この科目では動物福祉を考えるうえで把握しておくべきコンパニオンアニマルとしての動物のルーツを知り、人と動物のかかわりの歴史や動物観の変化を学ぶ。

※実務経験者

犬の飼育環境やコミュニケーション等、飼い主と愛犬の暮らしをサポートするコンパニオンアニマル・アドバイザー

【到達目標】

文化や時代背景の違いによる動物観の違いを理解している。
自分自身のもつ動物観を認識している。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業内容とすすめ方について説明、自己紹介
2回目	人と動物との関わり(飼育動物との関わりを理解する)
3回目	人と動物との関わり(産業動物との関わりを理解する)
4回目	人と動物との関わり(伴侶動物との関わりを理解する)
5回目	人と動物との関わり(実験動物との関わりを理解する)
6回目	日本人と動物との関わり(日本人と家畜の関わりを理解する)
7回目	日本人と動物との関わり(「神道」の動物観を考える)
8回目	日本人と動物との関わり(「仏教」の動物観を考える)
9回目	日本人と動物との関わり(日本の動物観の歴史を理解する)
10回目	日本人と動物との関わり(明治以降の動物観を考える)
11回目	西洋人と動物との関わり(「キリスト教」の動物観を理解する)
12回目	西洋人と動物との関わり(西洋の動物虐待の背景を理解する)
13回目	西洋人と動物との関わり(虐待から保護へとどう変わっていったかを理解する)
14回目	評価及び振り返り
15回目	動物の福祉(「5つの自由」を理解する)

準備学習
時間外学
習

評価方法

期末評価(筆記): 80%
授業参加度: 20%

【使用教科書・教材・参考書】 □

動物看護コアテキスト1(ファームプレス)

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物医療関連法規 (Animal-Related Laws and Regulations)	必修 選択	選択	年次		担当教員	月時 加寿子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

動物看護師の職域を定義づける法律はないが、動物看護師の活躍する獣医療域には数多くの法令が存在する。この科目では獣医療現場および公衆衛生、環境関連の法律を学び、専門職としての法令遵守の精神を養っていく。

※実務経験者

獣医師免許を取得した後、国際協力団体に家畜飼育に関わる。産業動物診療に従事した経験を有する。

【到達目標】

各法律の要点を述べることができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	法律とは(憲法・条例・条約の説明)
2回目	獣医師法 獣医療法
3回目	狂犬病予防法①
4回目	狂犬病予防法②
5回目	動物の愛護及び管理に関する法律①
6回目	動物の愛護及び管理に関する法律②
7回目	中間評価および振り返り
8回目	家畜伝染病予防法
9回目	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
10回目	ペットフード安全法 身体障害者補助犬法
11回目	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律
12回目	薬物四法 その他
13回目	ワシントン条約 ラムサール条約
14回目	期末評価および振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	普段から、動物および法律に関係する出来事や報道に関心をもつこと。
評価方法	中間試験:40% 期末試験:40% 平常点:20% 平常点は受講態度および出席状況などで評価する。
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト1(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	飼養管理学(エキゾチックアニマル) (Animal Management (Exotic Animals))	必修 選択	選択	年次		担当教員	原田 ルミ
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

近年、イヌ・ネコ以外の小動物も診療対象とする動物病院は珍しくない。この科目では動物看護師として把握しておくべきエキゾチックアニマルの生態・飼育方法・代表的な疾患を学ぶ。

※実務経験者

研究施設などで主に小動物の飼育管理、繁殖、研究補助などの経験を持つ教員が講義を行う。

【到達目標】

ウサギ・ハムスター・モルモット・フェレット・小鳥・爬虫類などの生態・身体的特徴・飼育方法を説明できる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション
2回目	ウサギ:分類と品種、生態
3回目	ウサギ:身体の特徴、飼育管理
4回目	ウサギ:食餌管理、主な疾患
5回目	フェレット:分類と品種、生態、身体の特徴
6回目	フェレット:飼育管理、食餌管理、主な疾患
7回目	中間評価試験 モルモット:分類と品種、生態、身体の特徴
8回目	モルモット:飼育管理、食餌管理、主な疾患
9回目	ハムスター:分類と品種、生態、身体の特徴
10回目	ハムスター:飼育管理、食餌管理、主な疾患
11回目	小鳥:分類、生態、身体の特徴
12回目	小鳥:飼育管理、食餌管理、主な疾患
13回目	爬虫類(カメ):分類、生態、身体の特徴、飼育管理、食餌管理
14回目	期末評価および振り返り
15回目	チンチラ:分類、生態、身体の特徴、飼育管理、食餌管理
準備学習 時間外学習	イヌ・ネコの身体的特徴や日常の管理における注意点などを復習し、学習する動物との違いについて理解を深めましょう。 鳥類や爬虫類の身体の特徴について調べ、哺乳類との違いを確認しておきましょう。
評価方法	定期テストにて知識の到達評価を行う。 ● 中間評価試験(30%) ● 評価試験(70%)
【使用教科書・教材・参考書】 □	
動物看護コアテキスト4(ファームプレス)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物薬理学 (Veterinary pharmacology)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高山 清次
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日1時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>動物病院で使用される薬剤について、作用・代謝・管理方法等について説明できるようになる 薬剤の処方では獣医師がおこなうが、調剤補助や投薬補助をおこなう動物看護師も基本的な薬剤の知識をもったうえで業務に携わるべきである。この科目では薬剤の取り扱いや、動物病院で扱う機会の多い薬剤の作用・代謝について学んでいく。</p> <p>※実務経験者 麻布獣医科大学獣医学部 博士課程修了/獣医学博士であり、現・大阪ECO動物海洋専門学校 学校長を務める。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>薬剤を適切に取り扱うことができる 主な薬剤の作用機序や特性を説明できる</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	薬物の取り扱い
2回目	薬理学の基礎
3回目	神経系に作用する薬
4回目	神経系に作用する薬
5回目	呼吸器系に作用する薬
6回目	循環器・泌尿器に作用する薬
7回目	消化器に作用する薬
8回目	消化器に作用する薬
9回目	オータコイド
10回目	糖尿病・甲状腺の薬
11回目	ステロイド 血液に関係する薬
12回目	抗炎症薬 免疫抑制剤 消毒薬
13回目	殺虫薬 抗菌薬
14回目	期末評価および振り返り
15回目	抗真菌薬 駆虫薬 抗がん剤
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席(30%) 小テスト(20%) 期末試験(50%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト3(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	臨床動物看護学／動物入院管理 <small>(Clinical Animal Nursing／Hospitalization Management of Animals)</small>	必修 選択	選択	年次		担当教員	池上 美紀
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	曜日・時限

【授業の学習内容】

動物看護師は獣医師の立てた治療方針に沿って動物を看護していくが、治療が最大限の効果を発揮するためには提供する看護内容に細やかな配慮が求められる。この科目では患者動物の個別性を意識しながら根拠のある看護計画を立案できる力を身に付ける。

※実務経験者

福岡県内の動物病院で動物看護業務に携わっていた。JAHA認定動物看護師1級を取得。
動物看護師統一認定機構 認定動物看護師

【到達目標】

看護診断・看護目標・看護計画を立てることができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション 動物看護過程とは
2回目	情報の収集と整理(アセスメント)
3回目	情報の収集と整理(アセスメント)
4回目	看護診断(問題の抽出と看護目標の設定)
5回目	看護診断(問題の抽出と看護目標の設定)
6回目	看護計画立案
7回目	看護計画立案
8回目	看護計画立案
9回目	看護計画立案
10回目	ペーパーシミュレーション
11回目	ペーパーシミュレーション
12回目	ペーパーシミュレーション
13回目	ペーパーシミュレーション
14回目	前期末評価および振り返り
15回目	評価解説
準備学習 時間外学習	各回の授業を復習したうえで次回の授業を受けること。
評価方法	筆記試験(100%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト5(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	臨床動物看護学／動物入院管理 <small>(Clinical Animal Nursing／Hospitalization Management of Animals)</small>	必修 選択	選択	年次		担当教員	池上 美紀
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	曜日・時限

【授業の学習内容】

動物看護師は獣医師の立てた治療方針に沿って動物を看護していくが、治療が最大限の効果を発揮するためには提供する看護内容に細やかな配慮が求められる。この科目では患者動物の個別性を意識しながら根拠のある看護計画を立案できる力を身に付ける。

※実務経験者

福岡県内の動物病院で動物看護業務に携わっていた。JAHA認定動物看護師1級を取得。
動物看護師統一認定機構 認定動物看護師

【到達目標】

看護診断・看護目標・看護計画を立てることができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ペーパーシミュレーション
2回目	ペーパーシミュレーション
3回目	ペーパーシミュレーション
4回目	ペーパーシミュレーション
5回目	ペーパーシミュレーション
6回目	ペーパーシミュレーション
7回目	ペーパーシミュレーション
8回目	ペーパーシミュレーション
9回目	ペーパーシミュレーション
10回目	ペーパーシミュレーション
11回目	ペーパーシミュレーション
12回目	ペーパーシミュレーション
13回目	ペーパーシミュレーション
14回目	後期末評価および振り返り
15回目	評価解説
準備学習 時間外学習	各回の授業を復習したうえで次回の授業を受けること。
評価方法	筆記試験(100%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト5(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物臨床栄養学 (Animal Nutrition)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	比嘉 恵子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

- ・動物を健康で長生きさせるために、日々の食餌管理は大切。
- ・食餌管理のために、栄養の基礎として各種栄養素を理解する。
- ・栄養素の役割だけでなく、摂取、代謝、排泄に関する理解を得る。
- ・健康状態の良い時はもちろん、悪い時(疾病時)も適切な食餌を選択する。

※実務経験者
動物看護師として動物病院で勤務後、京都・大阪・福岡などの専門学校で非常勤講師を勤める。動物看護師統一認定機構 認定動物看護師。関西動物看護教育研究会理事。

【到達目標】

- ・自分が世話する動物に、適切な食餌管理ができる(実践)
- ・飼い主に動物の健康状態に合わせた、適切な食餌管理の指導ができる。

授業計画・内容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	栄養素:蛋白質の分類と働き 必須アミノ酸 過剰症と欠乏症
3回目	栄養素:糖質の分類と働き 単糖類と多糖類 過剰症と欠乏症
4回目	栄養素:脂質の分類と働き 脂肪酸について 過剰症と欠乏症
5回目	栄養素:水溶性ビタミンの種類と働き 過剰症と欠乏症
6回目	栄養素:脂溶性ビタミンの種類と働き 過剰症と欠乏症
7回目	栄養素:主要ミネラルの種類と働き 過剰症と欠乏症
8回目	栄養素:微量ミネラルの種類と働き 過剰症と欠乏症
9回目	栄養素:水の働き 水分補給の注意点 脱水
10回目	中間評価及び振り返り
11回目	給餌法の基礎:給餌法 給餌回数
12回目	給餌法の基礎:自家製ペットフードの短所と長所 栄養素バランス カロリー計算
13回目	給餌法の基礎:市販のペットフードの種類
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	前期復習
準備学習 時間外学習	・自家製ペットフードなどは、簡単な調理ができること。
評価方法	※栄養学の知識の評価は筆記テストで、飼い主への指導は課題で評価。 ・出席、平常点(15%) ・筆記テスト:中間テスト(35%) ・課題の提出:期末テスト(50%)
【使用教科書・教材・参考書】 □	
動物看護コアテキスト6(ファームプレス)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物臨床栄養学 (Animal Nutrition)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	比嘉 恵子
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
				曜日・時限	火曜日4時限		
<p>【授業の学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物を健康で長生きさせるために、日々の食餌管理は大切。 ・食餌管理のために、栄養の基礎として各種栄養素を理解する。 ・栄養素の役割だけでなく、摂取、代謝、排泄に関する理解を得る。 ・健康状態の良い時はもちろん、悪い時(疾病時)も適切な食餌を選択する。 <p>※実務経験者 動物看護師として動物病院で勤務後、京都・大阪・福岡などの専門学校で非常勤講師を勤める。動物看護師統一認定機構 認定動物看護師。関西動物看護教育研究会理事。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が世話する動物に、適切な食餌管理ができる(実践) ・飼い主に動物の健康状態に合わせた、適切な食餌管理の指導ができる。 							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	給餌法:命に関わる食品
2回目	給餌法:栄養障害を起こす食品
3回目	給餌法:消化の悪い食品 アレルギー
4回目	成長段階別の給餌法:成長期
5回目	成長段階別の給餌法:妊娠・育児期
6回目	成長段階別の給餌法:高齢期
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	食餌療法:消化器疾患
9回目	食餌療法:心疾患
10回目	食餌療法:腎疾患
11回目	食餌療法:肥満症
12回目	食餌療法:糖尿病
13回目	食餌療法:アレルギー
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	総復習
準備学習 時間外学 習	・食餌療法では、個々の疾病の基礎知識が必要。
評価方法	※栄養学の知識の評価は筆記テストで、飼い主への指導は課題で評価。 ・出席、平常点(15%) ・筆記テスト:中間テスト(35%) ・課題の提出:期末テスト(50%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト6(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物看護演習Ⅱ (Practice of Veterinary Nursing)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	三角 亜沙美
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日1・2時限

【授業の学習内容】

動物看護師には獣医師のおこなう傷病動物への処置を補助し、動物の回復を支援していく役割がある。この科目では動物に対し施される処置とその補助に関わる知識・技術を身に付ける。

※実務経験者

福岡市内動物病院に勤務。動物看護師統一認定機構認定動物看護師。

【到達目標】

各処置の目的・必要な器具類が説明でき、取り扱うことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション
2回目	入院室管理
3回目	疼痛管理
4回目	疼痛管理
5回目	疼痛管理
6回目	疼痛管理
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	経管栄養
9回目	経管栄養
10回目	経管栄養
11回目	経管栄養
12回目	経管栄養
13回目	経管栄養
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	復習
準備学習 時間外学習	毎回授業の始めに前回授業内容について質疑応答をおこないます。
評価方法	定期テスト(筆記): 中間30%、期末40% 実技テスト: 20% 出席率: 10%
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト5(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物看護演習Ⅱ (Practice of Veterinary Nursing)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	三角 亜沙美
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日1・2時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>動物看護師には獣医師のおこなう傷病動物への処置を補助し、動物の回復を支援していく役割がある。この科目では動物に対し施される処置とその補助に関わる知識・技術を身に付ける。</p> <p>※実務経験者 福岡市内動物病院に勤務。動物看護師統一認定機構認定動物看護師。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>各処置の目的・必要な器具類が説明でき、取り扱うことができる。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	排泄の援助
2回目	排泄の援助
3回目	創傷管理
4回目	創傷管理
5回目	創傷管理
6回目	創傷管理
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	デンタルケア
9回目	デンタルケア
10回目	シャンプー療法
11回目	シャンプー療法
12回目	復習
13回目	復習
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	毎回授業の始めに前回授業内容について質疑応答をおこないます。
評価方法	定期テスト(筆記) : 中間30%、期末40% 実技テスト : 20% 出席率 : 10%
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/></p> <p>動物看護コアテキスト5(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物臨床検査学／動物臨床検査学演習Ⅰ <small>(Clinical Examination / Practice of Clinical Examination Ⅰ)</small>	必修 選択	必修	年次		担当教員	井ノ口 義哲
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】 動物看護師はその業務として検査補助を行うことも多い。この科目では各検体検査の目的と意義を理解し、正確な検査結果を出せるようになることを目的とする。 糞便検査、尿検査、皮膚検査についての理解を深めるため、講義後にその内容に対応した実習を実施する。実習では生体から検体を採取し、その検体の処理および検査を行い、検査結果の評価を実施する。</p> <p>※実務経験者 2010年4月～2016年6月まで福岡県内の動物病院にて勤務。 2016年11月～ 福岡東動物病院にて院長として診療業務全般に従事。</p>							
<p>【到達目標】 糞便検査、尿検査、皮膚検査の目的と意義を説明できる。 動物から採取した検体を検査内容に合わせて処理し、適切な手順で検査を行うことができる。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	臨床検査での動物看護師の役割について理解する。顕微鏡の使用方法を習得する。
2回目	糞便検査(直接法・浮遊法)を実施し、検査結果を評価する。便性状による病変予測ができる。
3回目	消化器症状を引き起こす病原体について説明できる。
4回目	各採尿方法の特徴を理解する。採取した尿から尿比重・尿蛋白を測定し、尿検査試験紙および顕微鏡検査の評価ができる。
5回目	尿沈渣検体の顕微鏡での評価を実施する。(病原体、結石、尿管柱など)
6回目	尿検査の実際の適応について症例データを提示して解説する。
7回目	糞便検査・尿検査についての総復習を行い、実習にてそれらすべての検査を実施する。
8回目	皮膚科診療の流れを理解する。皮膚科検査(搔爬検査、抜毛検査、押捺検査、耳垢検査)を実施する。
9回目	皮膚科検査(ウツド灯検査、真菌培養、細菌培養同定、アレルギー検査、内分泌検査、画像検査、生検検査)について理解する。
10回目	実習にて糞便検査、尿検査、皮膚検査で使用する検体を採取し、一般検査および評価を実施する。真菌培養検査の判定を行う。
11回目	実習にて糞便検査、尿検査、皮膚検査で使用する検体を採取し、一般検査および評価を実施する。
12回目	講義にて総復習を行う。
13回目	講義にて総復習を行う。
14回目	前期評価及び振り返り。
15回目	適切に保定・駆血を行い、採血することができる。
準備学習 時間外学 習	
評価方法	前期評価試験および出席日数で評価する。 ①出席日数(20%) ②前期評価試験(80%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト6(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物臨床検査学／動物臨床検査学演習 I <small>(Clinical Examination / Practice of Clinical Examination I)</small>	必修選択	必修	年次		担当教員	井ノ口 義哲
専攻名	ドッグマスター専攻	授業形態	演習	総時間(単位)	60 (4)	開講区分	

【授業の学習内容】

動物看護師はその業務として検査補助を行うことも多い。この科目では各検体検査の目的と意義を理解し、正確な検査結果を出せるようになることを目的とする。

血液検査、細菌検査、細胞学的検査についての理解を深めるため、各講義後にその内容に対応した実習を実施する。実習では生体から検体を採取し、その検体の処理および検査を行い、検査結果の評価を実施する。

※実務経験者

2010年4月～2016年6月まで福岡県内の動物病院にて勤務。

2016年11月～ 福岡東動物病院にて院長として診療業務全般に従事。

【到達目標】

一般的な検査項目の目的と意義を説明できる。

動物から採取した検体を検査内容に合わせて処理することができる。

適切な手順で検査を行うことができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	血液検査の意義および手技を理解する。採血した血液を用いてヘマトクリット管を用いた検査、血液塗抹の作製を習得する。
2回目	自動血球計算機によるCBCの評価を実施する。血液塗抹における血球の形態観察および分類を行う。
3回目	白血球百分比について理解し、形態から白血球を分類できる。
4回目	白血球百分比の結果を出し、病態を評価する。
5回目	貧血の分類について理解し、網状赤血球の検査から再生性貧血/非再生性貧血を鑑別できる。
6回目	血液生化学的検査の各項目の意義について理解し、結果から病態を評価する。
7回目	実習にて第1回-第6回の検査を反復し、理解を深める
8回目	病原性微生物の分類ができる。細菌培養および感受性検査の評価ができる。実習にて細菌培養を実施。
9回目	第8回で培養した細菌にグラム染色を実施して評価する。また、抗生剤ディスクを利用した抗生剤感受性検査を実施する。
10回目	第9回の抗生剤感受性検査の評価を行う。実習にて
11回目	細胞診の適応および手技について理解する。腫瘍性病変/炎症性病変/その他の特徴を説明できる。膣スミアを用いた交配適期の判定ができる。
12回目	講義にて総復習を行う。
13回目	講義にて総復習を行う。
14回目	後期評価及び振り返り。
15回目	後期実習の総括。

準備学習
時間外学習

評価方法

前期評価試験および出席日数で評価する。

①出席日数(20%)

②前期評価試験(80%)

【使用教科書・教材・参考書】 □

動物看護コアテキスト6(ファームプレス)

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物臨床検査学演習Ⅱ (Practice of Clinical Examination Ⅱ)	必修 選択	選択	年次		担当教員	野崎昭利
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

動物看護師はその業務として検査補助を行うことも多い。この科目では各生体検査の目的と意義を理解し、的確な生体検査の補助ができることを目的とする。

※実務経験者

山口県山口市において動物病院ワンダークリニックを開業(院長)し、今年で21年目である。

【到達目標】

心電図検査、X線検査、超音波検査、眼科検査、神経学的検査の目的と意義を説明できる。
各検査に必要な器具と用途を説明できる。
各検査内容に合わせた動物の扱いができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	授業オリエンテーション 心電図検査 毎回各検査実習の前に、TPR測定、血液検査等を実施し、健康状態を確認する。
2回目	3回目～13回目の各回冒頭において、学生によるプレゼンテーションを実施する。心電図検査 器機の取り扱い方を説明できる。
3回目	心電図検査 心電図の各フィルタ、ペーパースピード、各波等について説明できる。
4回目	心電図検査 心電図の解析を6軸チャート法で説明できる。
5回目	心電図検査 心電図の解析を目測法および作図法で説明できる。
6回目	眼科検査 眼科検査用器具の取り扱い方を説明できる。
7回目	中間評価及び振り返り 眼科検査 シルマー試験、フルオレセイン試験の実施法を説明できる。
8回目	眼科検査 直像検眼鏡、倒像検眼鏡の取り扱い方を説明できる。
9回目	眼科検査 ポータブルスリットランプの取り扱い方を説明できる。
10回目	神経学的検査 神経学的検査の所見を専用カルテに記録できる。その1
11回目	神経学的検査 神経学的検査の所見を専用カルテに記録できる。その2
12回目	神経学的検査 各神経学的検査の実施法を説明できる。その1
13回目	神経学的検査 各神経学的検査の実施法を説明できる。その2
14回目	期末評価、実技評価及び振り返り
15回目	前期復習
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、犬のからだしくみについての復習が必要です。また、各自に課せられるプレゼンテーションの発表および質疑応答への準備が必要。
評価方法	以下の割合で総合評価を行う。 学生によるプレゼンテーション および 学生による質疑応答(20%) 中間評価試験(30%) 期末評価試験(30%) 実技試験(20%)
【使用教科書・教材・参考書】 □	
動物看護コアテキスト6(ファームプレス)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物臨床検査学演習Ⅱ (Practice of Clinical Examination Ⅱ)	必修 選択	選択	年次		担当教員	野崎昭利
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

動物看護師はその業務として検査補助を行うことも多い。この科目では各生体検査の目的と意義を理解し、的確な生体検査の補助ができることを目的とする。

※実務経験者

山口県山口市において動物病院ワンダークリニックを開業(院長)し、今年で21年目である。

【到達目標】

心電図検査、X線検査、超音波検査、眼科検査、神経学的検査、内視鏡検査、CT、MRI検査および血圧測定の目的と意義を説明できる。
各検査に必要な器具と用途を説明できる。
各検査内容に合わせた動物の扱いができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	超音波検査 毎回各検査実習の前に、TPR測定を行い、必要に応じて血液検査等を実施し、健康状態を確認する。						
2回目	2回目～13回目の各回冒頭において、学生によるプレゼンテーションを実施する。超音波検査 器機の取り扱い方を説明できる。						
3回目	超音波検査 超音波の原理原則を説明できる。						
4回目	超音波検査 腹部超音波検査における動物のポジショニングを説明できる。						
5回目	超音波検査 胸部超音波検査における動物のポジショニングを説明できる。						
6回目	超音波検査 腹部および胸部超音波検査における基本的画像の読影を説明できる。						
7回目	中間評価及び振り返り X線検査 器機の取り扱い方を説明できる。						
8回目	X線検査 放射線の原理原則を説明できる。						
9回目	X線検査 レントゲン撮影関連器具の取り扱い方を説明できる。						
10回目	X線検査 撮影条件の設定と動物のポジショニングを説明できる。						
11回目	X線検査 腹部および胸部X線検査における基本的画像の読影を説明できる。						
12回目	内視鏡検査 消化管内視鏡の適応と器具の取り扱い方を説明できる。 血圧測定 血圧測定の目的と測定法を説明できる。						
13回目	CT、MRI検査 CT検査とMRI検査の特徴を比較してその違いを説明できる。						
14回目	期末評価、実技評価及び振り返り						
15回目	総復習						
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、犬のからだしくみについての復習が必要です。また、各自に課せられるプレゼンテーションの発表および質疑応答への準備が必要。						
評価方法	以下の割合で総合評価を行う 学生によるプレゼンテーションおよび学生による質疑応答(20%) 中間評価試験(30%) 期末評価試験(30%) 実技試験(20%)						

【使用教科書・教材・参考書】 □

動物看護コアテキスト6(ファームプレス)

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	外科動物看護演習/動物臨床検査学演習Ⅱ <small>(Practice of Animal Nursing (Surgery)/Practice of Clinical Examination Ⅱ)</small>	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	増山 崇
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1・2時限
<p>【授業の学習内容】 周術期では術前・術中・術後のそれぞれに動物看護師が担う役割がある。この科目では周術期の動物だけでなく手術に関連する器具機材の管理についても学び、麻酔管理や器械係の役割も理解していく。</p> <p>※実務経験者 福岡市内の動物病院院長が授業を行う。</p>							
<p>【到達目標】 周術期の動物に必要とされるケアを実践できる。 術前準備～術後管理までに必要となる一般的な器具機材を準備できる。 術中のモニタリングができる。</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	授業オリエンテーション
2回目	術前の情報収集 血液検査復習
3回目	術前の情報収集 血液検査復習
4回目	術前の情報収集 血液検査復習
5回目	術前の情報収集 血液検査復習
6回目	術前の情報収集 血液交差適合試験
7回目	一般的な軟部組織術で使用する器具
8回目	器具の消毒・滅菌
9回目	術者の準備
10回目	患者動物の準備
11回目	麻酔管理: 導入～覚醒まで
12回目	歯科学 スケーリング実習
13回目	歯科学 スケーリング実習
14回目	期末評価および振り返り
15回目	スケーリング実習
準備学習 時間外学 習	
評価方法	筆記試験(100%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 □</p> <p>動物看護コアテキスト6(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	外科動物看護演習/動物臨床検査学演習Ⅱ <small>(Practice of Animal Nursing (Surgery)/Practice of Clinical Examination Ⅱ)</small>	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	増山 崇
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

周術期では術前・術中・術後のそれぞれに動物看護師が担う役割がある。この科目では周術期の動物だけでなく手術に関連する器具機材の管理についても学び、麻酔管理や器械係の役割も理解していく。

※実務経験者

福岡市内の動物病院院長が授業を行う。

【到達目標】

周術期の動物に必要とされるケアを実践できる。
術前準備～術後管理までに必要となる一般的な器具機材を準備できる。
術中のモニタリングができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	術中のモニタリング
2回目	術中のモニタリング
3回目	外科実習
4回目	外科実習
5回目	外科実習
6回目	外科実習
7回目	外科実習
8回目	外科実習
9回目	外科実習
10回目	外科実習
11回目	外科実習
12回目	外科実習
13回目	外科実習
14回目	期末評価および振り返り
15回目	外科実習
準備学習 時間外学 習	
評価方法	筆記試験(100%)
<p>【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/></p> <p>動物看護コアテキスト6(ファームプレス)</p>	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	グルーミング演習 II (Practice of Basing Grooming II)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1・2時限

【授業の学習内容】

犬の基本的なお手入れ方法を実際のモデル犬を使って学び、犬種別のグルーミングを理解します。また、マネキンを使い基本的なカットやシザーワークを学びます。

※実務経験：JKCトリマーライセンスA級取得。
福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校での講師として勤務。

【到達目標】

90分で基本的なグルーミングが出来るようになる。(グルーミング検定B級合格)
カットの基本からラッピング、ペットクリップが出来るようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ポメラメにアン1頭デモストレーション
2回目	プードル ラムクリップ
3回目	プードル ラムクリップ
4回目	プードル ラムクリップ
5回目	プードル ラムクリップ
6回目	プードル ラムクリップ
7回目	プードル ラムクリップ
8回目	プードル ラムクリップ
9回目	プードル ラムクリップ
10回目	プードル ラムクリップ
11回目	シュナウザー 2人1頭
12回目	プードル ラムクリップ
13回目	プードル ラムクリップ
14回目	プードル ラムクリップ
15回目	プードル ラムクリップ
準備学習 時間外学習	JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)
評価方法	授業内評価 レポート提出20点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:20点 時間管理:20点

【使用教科書・教材・参考書】 □

JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	グルーミング演習 II (Practice of Basing Grooming II)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日1・2時限

【授業の学習内容】

犬の基本的なお手入れ方法を実際のモデル犬を使って学び、犬種別のグルーミングを理解します。また、マネキンを使い基本的なカットやシザーワークを学びます。

※実務経験：JKCトリマーライセンスA級取得。
福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校講師として勤務。

【到達目標】

90分で基本的なグルーミングが出来るようになる。(グルーミング検定B級合格)
カットの基本からラッピング、ペットクリップが出来るようになる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ポメラニアン (2人1頭)
2回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
3回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
4回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
5回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
6回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
7回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
8回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
9回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
10回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
11回目	シュナウザー 2人1頭
12回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
13回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
14回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
15回目	プードル マルチーズ ヨーキー ポメラニアン ブロー、カット (2人1頭)
準備学習 時間外学習	JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)
評価方法	授業内評価 レポート提出20点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:20点 時間管理:20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	
JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習 I (Practice of Trimming I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日3・4・5時限

【授業の学習内容】

トリミング犬種の犬種別カットの特徴を学びます。

※実務経験: JKCTリマーライセンスA級取得。
福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校に講師として勤務。

【到達目標】

道具の理解と犬種別の特徴を理解する。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	自己紹介 担当決め 道具説明
2回目	スタック犬の扱い方 保定 (2人1頭)
3回目	爪切り 耳掃除 ブラッシング(2人1頭)
4回目	爪切り 耳掃除 ブラッシング(1人1頭)
5回目	ブラッシング(2人1頭)
6回目	足裏 肛門 腹バリカン (2人1頭) 中間評価
7回目	シャンプー ブロー デモンストレーション
8回目	短毛 短吻 犬種
9回目	チワワ(2人1頭)
10回目	ダックス(2人1頭)
11回目	ダックス(1人1頭)
12回目	マルチーズ ヨークシャーテリア (2人1頭)
13回目	マルチーズ ヨークシャーテリア (2人1頭)
14回目	マルチーズ ヨークシャーテリア (1人1頭) 期末評価
15回目	プードル(2人1頭)

準備学習
時間外学習

評価方法

授業内評価
レポート提出:20点
出席:10点
犬の扱い方:30点
道具の扱い方:20点
時間管理:20点

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習 I (Practice of Trimming I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜日・木曜日3・4・5時限

【授業の学習内容】

トリミング犬種の犬種別カットの特徴を学びます。

※実務経験: JKCTリマーライセンスA級取得。
福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校に講師として勤務。

【到達目標】

道具の理解と犬種別の特徴を理解する。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	プードル (2人1頭)
2回目	プードル (1人1頭)
3回目	まとめ
4回目	ダックスフンド 足まわり フラックテール
5回目	ポメラニアン (2人1頭)
6回目	チワワ (2人1頭)
7回目	ダックスフンド (2人1頭)
8回目	マルチーズ ヨークシャーテリア (2人1頭)
9回目	プードル (2人1頭)
10回目	ウイック解き チッピング マネキン チッピング
11回目	ウイック半分カット 足まわりカット
12回目	マネキンカット マネキン解き
13回目	プードル ブロー (2人1頭)
14回目	マネキンカット チッピング
15回目	プードル ブロー (2人1頭)

準備学習
時間外学習

評価方法
授業内評価
レポート提出:20点
出席:10点
犬の扱い方:30点
道具の扱い方:20点
時間管理:20点

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習Ⅱ (Practice of Trimming Ⅱ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】</p> <p>1・2年次に身に付けた、犬の基本的なお手入れと犬種別のグルーミングの確認をしながら、基本的なカットやシザーワークを実際にモデル犬を使って実践する授業です。</p> <p>※実務経験: JKCTリマーライセンスA級取得。 福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校での講師として勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>120分でラムクリップ仕上げるCOMグルーミング検定A級合格、JKCTリマーライセンスC級合格</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	展開図 犬体 ラム・クリップ
2回目	マネキンカット
3回目	マネキンカット
4回目	マネキンカット
5回目	マネキンカット
6回目	マネキンカット
7回目	マネキンカット 中間評価及び振り返り
8回目	マネキンカット
9回目	マネキンカット
10回目	マネキンカット
11回目	マネキンカット
12回目	マネキンカット
13回目	マネキンカット
14回目	マネキンカット 期末評価及び振り返り
15回目	マネキンカット
準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内評価 レポート提出:20点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:20点 時間管理:20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習Ⅱ (Practice of Trimming Ⅱ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	曜日・時限

【授業の学習内容】

1・2年次に身に付けた、犬の基本的なお手入れと犬種別のグルーミングの確認をしながら、基本的なカットやシザーワークを実際にモデル犬を使って実践する授業です。

※実務経験：JKCTリマーライセンスA級取得。
福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校での講師として勤務。

【到達目標】

120分でラムクリップ仕上げるCOMグルーミング検定A級合格、JKCTリマーライセンスC級合格

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	ヨークシャーテリアカット講習（2人1頭）
2回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
3回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
4回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
5回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
6回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
7回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭） 中間評価及び振り返り
8回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
9回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
10回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
11回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
12回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
13回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
14回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭） 期末評価及び振り返り
15回目	プードル、マルチーズ、シーズー、ヨークシャーテリア、ポメラニアン（2人1頭）
準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内評価 レポート提出20点 出席：10点 犬の扱い方：30点 道具の扱い方：20点 時間管理：20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習Ⅱ (Practice of Trimming Ⅱ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	曜日・時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>1・2年次に身に付けた、犬の基本的なお手入れと犬種別のグルーミングの確認をしながら、基本的なカットやシザーワークを実際にモデル犬を使って実践する授業です。</p> <p>※実務経験：JKCTリマーライセンスA級取得。 福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校での講師として勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>120分でラムクリップ仕上げるCOMグルーミング検定A級合格、JKCTリマーライセンスC級合格</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
2回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
3回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
4回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
5回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
6回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
7回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
8回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
9回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
10回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
11回目	マルチーズ シーズー サマー講習 (2人1頭)
12回目	マルチーズ シーズー サマーカット (2人1頭)
13回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
14回目	ポメラニアン講習 (2人1頭)
15回目	プードル ラム・クリップ (2人1頭)
準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内評価 レポート提出:20点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:20点 時間管理:20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習Ⅱ (Practice of Trimming Ⅱ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	王寺美那
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	曜日・時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>1・2年次に身に付けた、犬の基本的なお手入れと犬種別のグルーミングの確認をしながら、基本的なカットやシザーワークを実際にモデル犬を使って実践する授業です。</p> <p>※実務経験：JKCTリマーライセンスA級取得。 福岡県内にある動物病院に勤務後、動物業界に携わり、福岡ECO動物専門学校での講師として勤務。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>120分でラムクリップ仕上げるCOMグルーミング検定A級合格、JKCTリマーライセンスC級合格</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1回目	プードル テディベア講習 (2人1頭)
2回目	プードル テディベア講習 (2人1頭)
3回目	プードル ラム・クリップ講習 (2人1頭)
4回目	プードル ラム・クリップ講習 (2人1頭)
5回目	プードル ラム・クリップ講習 (2人1頭)
6回目	プードル ラム・クリップ講習 (2人1頭)
7回目	プードル ラム・クリップ講習 (2人1頭)
8回目	プードル ラム・クリップ講習 (2人1頭) 中間評価及び振り返り
9回目	プードル (1人1頭)
10回目	プードル (1人1頭)
11回目	プードル (1人1頭)
12回目	プードル (1人1頭)
13回目	プードル (1人1頭)
14回目	プードル (1人1頭) 期末評価及び振り返り
15回目	プードル (1人1頭)
準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内評価 レポート提出:20点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:20点 時間管理:20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習Ⅲ (Practice of Trimming)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	篠原千奈美
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日3・4・5時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>1、2年次に身に付けた、犬の基本的なお手入れと犬種別のグルーミングの確認をしながら、基本的なカットやシザーワークを実際にモデル犬を使って実践する授業です。</p> <p>※実務経験者 JKC公認トリマーライセンスB級取得。卒業後ペットサロンハッピーを開業。現在は開業後して22年になる</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>120分でラムクリップ仕上げるCOMグルーミング検定A級合格、JKCトリマーライセンスC級合格</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	スタック位置・目線確認 (2人1頭)
2回目	ブローの徹底 (1人1頭)
3回目	バリカンの徹底 (1人1頭)
4回目	足回りの徹底 (1人1頭)
5回目	バリカンのきわ徹底 (1人1頭)
6回目	ウエストの徹底 (1人1頭)
7回目	アンダーラインの徹底 (1人1頭)
8回目	お尻の徹底 (1人1頭)
9回目	胸の徹底 (1人1頭)
10回目	アンギュレーションの徹底 (1人1頭)
11回目	アンギュレーションの徹底 (1人1頭)
12回目	肩の徹底 (1人1頭)
13回目	トップラインの徹底 (1人1頭)
14回目	前期評価及び振り返り 2時間カット仕上げ (1人1頭)
15回目	顔 頭の徹底
準備学習 時間外学習	JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)
評価方法	授業内評価 レポート提出10点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:30点 時間管理:20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習Ⅲ (Practice of Trimming)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	篠原千奈美
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日3・4・5時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>1、2年次に身に付けた、犬の基本的なお手入れと犬種別のグルーミングの確認をしながら、基本的なカットやシザーワークを実際にモデル犬を使って実践する授業です。</p> <p>※実務経験者 JKC公認トリマーライセンスB級取得。卒業後ペットサロンハッピーを開業。現在は開業後して22年になる</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>120分でラムクリップ仕上げるCOMグルーミング検定A級合格、JKCトリマーライセンスC級合格</p>							

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	トリミング犬種 仕上げ120分 バリカン25分
2回目	トリミング犬種 仕上げ120分 バリカン25分
3回目	トリミング犬種 仕上げ120分 バリカン25分
4回目	トリミング犬種 仕上げ120分 バリカン25分
5回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン20分
6回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン20分
7回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン20分
8回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン20分
9回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
10回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
11回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
12回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
13回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
14回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
15回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
準備学習 時間外学習	JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)
評価方法	授業内評価 レポート提出10点 出席:10点 犬の扱い方:30点 道具の扱い方:30点 時間管理:20点
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	トリミング演習Ⅲ (Practice of Trimming)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	篠原 千奈美
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

1、2年次に身に付けた、犬の基本的なお手入れと犬種別のグルーミングの確認をしながら、基本的なカットやシザーワークを実際にモデル犬を使って実践する授業です。

※実務経験者

JKC公認トリマーライセンスB級取得。卒業後ペットサロンハッピーを開業。現在は開業後して22年になる

【到達目標】

120分でラムクリップ仕上げるCOMグルーミング検定A級合格、JKCトリマーライセンスC級合格

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	アウトラインスタック 立ち位置 目線
2回目	トリミング犬種 仕上げ120分 バリカン25分
3回目	トリミング犬種 仕上げ120分 バリカン25分
4回目	トリミング犬種 仕上げ120分 バリカン25分
5回目	トリミング犬種 仕上げ120分 バリカン25分
6回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン20分
7回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン20分
8回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン20分
9回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン20分
10回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
11回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
12回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
13回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
14回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分
15回目	トリミング犬種 仕上げ100分 バリカン15分

準備学習
時間外学習

JKCグルーミングマニュアル、プリント(展開図)

評価方法

授業内評価
レポート提出10点
出席:10点
犬の扱い方:30点
道具の扱い方:30点
時間管理:20点

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	総合臨床演習 (Clinical practice)	必修 選択	選択	年次	2or3	担当教員	業界研修
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	135 (9)	開講区分 曜日・時限	随時 随時

【授業の学習内容】

習得した知識・技術をより実践的なものにするために、診療現場での臨床経験を積む。

【到達目標】

1. 診療現場での業務を把握する。
2. 診療現場に必要な専門知識・技術を身につける。
3. 診療現場に必要なコミュニケーション力を身につける。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	診療現場において業務経験を積む (1)
2回目	診療現場において業務経験を積む (2)
3回目	診療現場において業務経験を積む (3)
4回目	診療現場において業務経験を積む (4)
5回目	診療現場において業務経験を積む (5)
6回目	診療現場において業務経験を積む (6)
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	診療現場において業務経験を積む (7)
9回目	診療現場において業務経験を積む (8)
10回目	診療現場において業務経験を積む (9)
11回目	診療現場において業務経験を積む (10)
12回目	診療現場において業務経験を積む (11)
13回目	診療現場において業務経験を積む (12)
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる

準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなどをメモした内容を、ノート等にまとめる。
---------------	---------------------------------------

評価方法	研修毎および研修終了後のレポートによる評価100%
------	---------------------------

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	動物飼育演習 (Practice of Animal Keeping)	必修 選択	選択	年次	1or2or3	担当教員	業界研修
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

適正飼育の実践と正常・異常に気付く力を身に付ける。
 実験動物・産業動物・野生動物・展示動物などの飼養管理を学ぶ。

【到達目標】

業界研修(グリーンハート筑紫野・ラブリードッグなど)を通して、適正飼育の実践だけでなく、正常・異常に気付く力を身に付ける。具体的にはね犬をよく観察し、犬の個性や状況に合わせた適切な対応ができるようになる。
 集中授業として、ペット産業以外の動物業界における動物たちの飼養管理方法を実験動物・産業動物・野生動物・展示動物などを学ぶ。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	施設内の見学
2回目	施設内のルールの確認
3回目	飼育動物に対する各個体の注意点の確認
4回目	一日の動物飼育の流れを学ぶ
5回目	一日の動物飼育の流れを実践する
6回目	展示動物
7回目	産業動物 1
8回目	産業動物 2
9回目	産業動物 3
10回目	実験動物 1
11回目	実験動物 2
12回目	実験動物 3
13回目	野生動物 1
14回目	野生動物 2
15回目	振り返り

準備学習
時間外学習

評価方法

研修毎および研修終了後のレポートによる評価100%

【使用教科書・教材・参考書】 □

講師作成資料
 犬の解剖カラーリングアトラス(株式会社学窓社)
 犬のリハビリテーション(インターズー)

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Practice of Computer)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	井口恵美里
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】
 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく
 前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する
 前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。
 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。
 ※実務経験者
 滋慶学園各校でコンピュータ授業講師(20年)

【到達目標】
 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる
 Wordを使ってレポート作成が出来るようになる
 安全にインターネットを利用できるようになる
 「We are ECO」のスライドが作れるようになる

授業計画・内容

1回目	USBメモリー紛失対策・USBメモリーの使い方等/ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作(主に文章入力)
4回目	Wordの基本操作(主に文章編集)
5回目	Wordの基本操作(主に写真を貼り付けた文章の作成)
6回目	Wordの基本操作(主に図形を描画して色・線種を変更する)
7回目	Wordの基本操作(課題提出)
8回目	Word中級編(主に表を挿入し読みやすい表に整形する)
9回目	Word中級編(文章作成の役に立つ機能を勉強する)
10回目	Word中級編(図+文字で他人の関心を引く文章を作成する)
11回目	Wordの応用(計算式を入力してみる)
12回目	Wordの応用(レポート作成に便利な機能を勉強する)
13回目	Wordの応用(繰り返し利用する文章を簡単に作る方法を勉強する)
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	PowerPoint基礎(文字だけもの・画像を入れたもの・グラフ等を入れたもの)

準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内評価:60% 期末テスト:40% ※提出作品(データで提出)

【使用教科書・教材・参考書】

COMPUTER BASIC Word
 COMPUTER BASIC Excel

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Practice of Computer)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	井口恵美里
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】
 業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく
 後期は「Excel」を使い「計算式が入った表」や「読みやすいグラフの作り方」を勉強していく
 Excelへの苦手意識を少しでも減らす講義にする
 基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。
 ※実務経験者
 滋慶学園各専攻でコンピュータ授業講師(20年)

【到達目標】
 Excelへの苦手意識を少しでも減らす
 教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる
 Excelを使って計算式が入った表やグラフが作成できるようになる
 「We are ECO」のスライドを作成する

授業計画・内容

1回目	PowerPoint基礎(印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション)
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ

準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内評価:60% 期末テスト:40% ※提出作品(PowerPoint作品提出・Excel作品提出)

【使用教科書・教材・参考書】

COMPUTER BASIC Word
 COMPUTER BASIC Excel

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	英会話 (English Conversation)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	スティーブン・ムラシゲ
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

外国の方と接する際、恥ずかしがらずに挨拶や基本的な事を英語で話し、更に自分から話しかけることができるよう学習する。
ただ座って聞くだけではなく、アクティビティに参加しながら体感的に学んでいく。

※実務経験者

2000年より日本にて教授をしている。小学、中学、高等学校等で英会話の教授経験あり。

【到達目標】

- ・日常生活の様々な場面で使える頻度の高い英語の文法を会話に当てはめて使えるようになること。
- ・授業でのコミュニケーションな会話の実践を通して、相手の会話をすぐに理解し、積極的な対応ができる技術を身につけること(自信を持って尚且つ丁寧に相手の話を聞き、返答ができるようになること)

授業計画・内容

1回目	L. 1	イントロダクション、プレテスト、初対面のあいさつ～お別れまでの会話をする。
2回目	L. 3	パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問をする。
3回目	L. 6	好き・嫌い等の好みについての会話をする。
4回目	L. 8	意見を尋ねる/意見を述べる。
5回目	L. 9 & 10	家族や性格について話す。
6回目	L. 11	人を褒める&褒められた際の会話表現 (衣服など)
7回目	L. 7, 13	時間について表現する。日々の習慣について話す。
8回目	L. 14	補足質問をする。
9回目	L. 19 & 20	道案内をする・場所を尋ねる。
10回目	L. 21 & 23	数やお金の数え方・価格や頻度についての質問や受け答えをする。
11回目	L. 28	料理の味や材料について&レストランでのオーダー方法を学ぶ。
12回目	L. 29 & 30	過去の出来事について話す&質問する。
13回目	L. 32	未来の予定について話す。
14回目	期末評価及び振り返り①	
15回目	振り返り②	
準備学習 時間外学習	事前に教科書を読んでおきましょう。	
評価方法	学期末に筆記試験あり(定期試験100%)	

【使用教科書・教材・参考書】

Speak Now1

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	キャリアプランニング I (Carrier planning-I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	江口 僚悟
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
専攻名	ドッグマスター専攻					曜日・時限	水曜日2時限
【授業の学習内容】 クラスなど集団でのコミュニケーションを図り、有権者教育を通して社会の構成員としての立場を理解する。							
【到達目標】 社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。 チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。 卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。							
授 業 計 画 ・ 内 容							
1回目	学校生活①	クラス組織確認／基本生活					
2回目	学校生活②	年間行事／部活動紹介					
3回目	教育相談／社会人基礎力	「就職」・「学校生活」アンケート					
4回目	イベント運営／キャリア教育	専攻イベント					
5回目	イベント運営／キャリア教育	学園祭の取組					
6回目	キャリア教育／一般教養	合同企業説明会／就職活動					
7回目	イベント運営／キャリア教育	学園祭／合同企業説明会					
8回目	キャリア教育／一般教養	企業・社会が求めている人材					
9回目	キャリア教育／一般教養	成功の原則					
10回目	キャリア教育／一般教養	OBOGセミナーの意義					
11回目	国際教育／社会人基礎力	海外実学研修ガイダンス					
12回目	イベント運営／キャリア教育	スポーツフェスタの取組					
13回目	教育相談／社会人基礎力	期末考査対策／単位認定					
14回目	イベント運営／キャリア教育	動物愛護フェスタの取組					
15回目	教育相談／社会人基礎力	「就職」・「学校生活」アンケート					
準備学習 時間外学習							
評価方法	筆記試験: 15% 授業参加度: 60% 作品提出: 25%						
【使用教科書・教材・参考書】 □							

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	キャリアプランニング I (Carrier planning-I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	江口 僚悟
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日3時限

【授業の学習内容】
 クラスなど集団でのコミュニケーションを図り、有権者教育を通して社会の構成員としての立場を理解する。

【到達目標】
 社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
 チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
 卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む

授業計画・内容

1回目	国際教育／社会人基礎力	海外実学研修の注意事項
2回目	イベント運営／キャリア教育	動物愛護フェスタの取組
3回目	キャリア教育／一般教養	就職の取組①「履歴書」／立志作文
4回目	キャリア教育／一般教養	就職の取組②「履歴書」
5回目	キャリア教育／一般教養	就職の取組③「履歴書」の評価
6回目	キャリア教育／一般教養	合同企業説明会／先輩たちの活動
7回目	教育相談／社会人基礎力	調べ学習「パワーポイントの作成」
8回目	教育相談／社会人基礎力	調べ学習「パワーポイントの作成」
9回目	教育相談／社会人基礎力	調べ学習「パワーポイントの作成」
10回目	教育相談／社会人基礎力	「就職」・「学校生活」アンケート
11回目	キャリア教育／社会人基礎力	キャリアセンター登録票説明
12回目	キャリア教育／社会人基礎力	文章の書き方①200文字／活動計画
13回目	キャリア教育／社会人基礎力	文章の書き方②200文字／資格
14回目	キャリア教育／社会人基礎力	文章の書き方③200文字／研究発表
15回目	教育相談／社会人基礎力	来年度の授業／履修登録

準備学習 時間外学習	
評価方法	筆記試験: 15% 授業参加度: 60% 作品提出: 25%

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	エコ教養Ⅱ (Human Study -Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	林田 新太郎
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜日1時限

【授業の学習内容】
 クラス・担任とのコミュニケーション図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。

【到達目標】
 社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
 チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
 卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。

授業計画・内容

1回目	学校生活①	クラス組織確認／基本生活
2回目	学校生活②	年間行事／部活動紹介
3回目	教育相談／社会人基礎力	「就職」・「学校生活」アンケート
4回目	社会人基礎力／イベント運営	年金制度／学園祭の取組
5回目	社会人基礎力／イベント運営	社会福祉／学園祭の取組
6回目	イベント運営／キャリア教育	合同企業説明会／就職活動
7回目	イベント運営／キャリア教育	学園祭／合同企業説明会
8回目	キャリア教育／一般教養	研修ノート・・・成功した先輩たちの記録
9回目	キャリア教育／一般教養	業界研修・・・成功した先輩たちの研修
10回目	キャリア教育／一般教養	学生生活を成功した先輩たち
11回目	キャリア教育／一般教養	就職活動計画／資格取得
12回目	イベント運営／キャリア教育	スポーツフェスタの取組
13回目	教育相談／社会人基礎力	夏休みの計画／単位認定
14回目	イベント運営／キャリア教育	動物愛護フェスタの取組
15回目	教育相談／社会人基礎力	「就職」・「学校生活」アンケート

準備学習
時間外学習

評価方法
 授業内で使用したプリントの提出(1回5点の評価×15週) 75%
 イベント振り返りレポートの評価15%
 課題提出の評価10%

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	エコ教養Ⅱ (Human Study -Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	林田 新太郎
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜日1時限

【授業の学習内容】
 クラス・担任とのコミュニケーション図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。

【到達目標】
 社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
 チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
 卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。

授業計画・内容

1回目	後期に向けて 「就職」・「学校生活」アンケート
2回目	イベント運営／キャリア教育 動物愛護フェスタ／履歴書①「志望動機」
3回目	イベント運営／キャリア教育 動物愛護フェスタ／履歴書②「専門分野で学んだ事」
4回目	イベント運営／キャリア教育 動物愛護フェスタ／履歴書③「自己PR」
5回目	イベント運営／キャリア教育 動物愛護フェスタ／履歴書④「最近の関心事」
6回目	キャリア教育／一般教養 合同企業説明会参加企業説明
7回目	キャリア教育／一般教養 合同企業説明会参加企業説明
8回目	キャリア教育／一般教養 キャリアセンター登録票の取組
9回目	キャリア教育／一般教養 キャリアセンター登録票の取組
10回目	キャリア教育／社会人基礎力 文章の書き方①400文字／活動計画
11回目	キャリア教育／社会人基礎力 文章の書き方②400文字／資格
12回目	キャリア教育／社会人基礎力 文章の書き方③400文字／研究発表
13回目	キャリア教育／社会人基礎力 春休みの業界研修確認
14回目	教育相談／社会人基礎力 「就職」・「学校生活」アンケート
15回目	教育相談／社会人基礎力 来年度の授業／履修登録

準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内で使用したプリントの提出(1回5点の評価×15週) 75% イベント振り返りレポートの評価15% 課題提出の評価10%

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	エコ教養Ⅲ (Human Study -Ⅲ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	林田 新太郎
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日2時限

【授業の学習内容】
 社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを学びを通して就職・資格試験の合格を達成する。

【到達目標】
 社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
 チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
 卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。

授業計画・内容

1回目	学校生活／企業研究	クラス組織確認／企業研究
2回目	学校生活／企業研究	年間行事／企業研究
3回目	キャリア教育／社会人基礎力	「就職」・「学校生活」アンケート
4回目	キャリア教育／社会人基礎力	文章の書き方①180文字
5回目	キャリア教育／社会人基礎力	文章の書き方②180文字
6回目	イベント運営／キャリア教育	学園祭／合同企業説明会
7回目	イベント運営／キャリア教育	社会人基礎力①保険制度
8回目	イベント運営／キャリア教育	社会人基礎力②年金制度
9回目	イベント運営／キャリア教育	社会人基礎力③有権者教育
10回目	イベント運営／キャリア教育	社会人基礎力④有権者教育
11回目	イベント運営／キャリア教育	社会人基礎力⑤自分自身を見直す
12回目	イベント運営／キャリア教育	スポーツフェスタの取組／夏研修
13回目	イベント運営／キャリア教育	スポーツフェスタの取組／夏研修
14回目	教育相談／社会人基礎力	「就職」・「学校生活」アンケート
15回目	教育相談／社会人基礎力	夏研修計画

準備学習 時間外学習	
評価方法	授業内で使用したプリントの提出(1回5点の評価×15週) 75% イベント振り返りレポートの評価15% 課題提出の評価10%

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	エコ教養Ⅲ (Human Study -Ⅲ)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	林田 新太郎
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日2時限

【授業の学習内容】
 社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを学びを通して就職・資格試験の合格を達成する。

【到達目標】
 社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
 チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
 卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。

授業計画・内容

1回目	教育相談／社会人基礎力	「就職」・「学校生活」アンケート
2回目	キャリア教育／社会人基礎力	社会人基礎力①職場の人間関係
3回目	キャリア教育／社会人基礎力	社会人基礎力②働くという事
4回目	キャリア教育／社会人基礎力	社会人基礎力③社会人になる
5回目	社会人教育／社会人基礎力	社会人基礎力①銀行・通帳
6回目	社会人教育／社会人基礎力	社会人基礎力②ローン返済
7回目	社会人教育／社会人基礎力	社会人基礎力③報・連・相
8回目	社会人教育／資格取得対策	研究発表準備／動物看護師統一認定試験対策
9回目	社会人教育／資格取得対策	研究発表準備／動物看護師統一認定試験対策
10回目	社会人教育／資格取得対策	研究発表準備／動物看護師統一認定試験対策
11回目	社会人教育／資格取得対策	研究発表準備／動物看護師統一認定試験対策
12回目	社会人教育／資格取得対策	就職／動物看護師統一認定試験対策
13回目	社会人教育／資格取得対策	就職／動物看護師統一認定試験対策
14回目	社会人教育／資格取得対策	卒業式／動物看護師統一認定試験対策
15回目	社会人教育／資格取得対策	卒業式／動物看護師統一認定試験対策

準備学習 時間外学習		
評価方法	授業内で使用したプリントの提出(1回5点の評価×15週) 75% イベント振り返りレポートの評価15% 課題提出の評価10%	

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	院内コミュニケーションⅡ(プレゼンテーション) (Communication Skills II (Presentation))	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	有限会社 セレーノ・コーポレーション
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜日2時限
【授業の学習内容】 社会人としての基本【挨拶】【表情】【身だしなみ】【言葉遣い】【態度】などを身につけて、社会人基礎力の向上を指す							
【到達目標】 専門職としての自分の役割を知り、社会人基礎力と専門性をバランスよく表現していく							

授業計画・内容	
1回目	理想の看護師像について
2回目	他己紹介・コミュニケーションについて
3回目	リーダーの役割・リーダー補佐とは
4回目	立ち居振る舞について
5回目	グループワーク 知識を集める
6回目	グループワーク 非言語の重要性
7回目	電話対応①
8回目	電話対応②
9回目	グループワーク 問題解決学
10回目	適性検査・自分の弱み改善
11回目	グループワーク(知識編)
12回目	会話練習・電話対応・グループワーク①
13回目	会話練習・電話対応・グループワーク②
14回目	実習報告・今後の課題
15回目	グループワーク・看護知識発表
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり
評価方法	プレゼンテーション力(返事・表情・発言・柔軟性) 30% 傾聴力(着席時の態度) 40% テスト 30%
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	院内コミュニケーションⅡ(プレゼンテーション)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	有限会社 セレーノ・コーポレーション
	(Communication Skills II (Presentation))	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	ドッグマスター専攻					曜日・時限	月曜日2時限
<p>【授業の学習内容】</p> <p>実習先での体験等を基本に、具体的な立ち居振る舞いやコミュニケーション技法などを身に付ける</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>自分の理想とする看護師像への自己分析をし自ら向上していく力を養う</p>							

授業計画・内容	
1回目	開かれた質問・閉ざされた質問・ワーク
2回目	アサーティブ リフレーミング ワーク
3回目	一般常識問題・会話・電話対応
4回目	病状に応える・専門知識を伝える
5回目	電話対応 グループワーク
6回目	印象の与え方・自己分析から実践
7回目	グループワーク 非言語の影響力
8回目	グループワーク 基礎知識を伝える
9回目	グループワーク リフレーミング
10回目	グループワーク 周囲の雰囲気を読み取る
11回目	適性検査について 学習復習
12回目	グループワーク 情報を統合する力をつける① 傾聴力を身に付ける
13回目	グループワーク 情報を統合する力をつける② 報告力を身に付ける
14回目	コミュニケーションの実践と復習
15回目	社会人としての心構え、社会人基礎力の確認
準備学習 時間外学 習	前期と同じ
評価方法	プレゼンテーション力(返事・表情・発言・柔軟性) 30% 傾聴力(着席時の態度) 40% テスト 30%
【使用教科書・教材・参考書】 □	

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	内定者研修 (Practical Training)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。

【到達目標】

1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。
2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。
3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	就職内定先において業務経験を積む (1)
2回目	就職内定先において業務経験を積む (2)
3回目	就職内定先において業務経験を積む (3)
4回目	就職内定先において業務経験を積む (4)
5回目	就職内定先において業務経験を積む (5)
6回目	就職内定先において業務経験を積む (6)
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む (7)
9回目	就職内定先において業務経験を積む (8)
10回目	就職内定先において業務経験を積む (9)
11回目	就職内定先において業務経験を積む (10)
12回目	就職内定先において業務経験を積む (11)
13回目	就職内定先において業務経験を積む (12)
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめる。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う(100%)。

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	内定者研修 (Practical Training)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
	専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	45 (3)	開講区分 曜日・時限

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。

【到達目標】

1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。
2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。
3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	就職内定先において業務経験を積む (1)
2回目	就職内定先において業務経験を積む (2)
3回目	就職内定先において業務経験を積む (3)
4回目	就職内定先において業務経験を積む (4)
5回目	就職内定先において業務経験を積む (5)
6回目	就職内定先において業務経験を積む (6)
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む (7)
9回目	就職内定先において業務経験を積む (8)
10回目	就職内定先において業務経験を積む (9)
11回目	就職内定先において業務経験を積む (10)
12回目	就職内定先において業務経験を積む (11)
13回目	就職内定先において業務経験を積む (12)
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめる。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う(100%)。

【使用教科書・教材・参考書】

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	特別研究課題 (Advanced Research Project from a Workplace)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	前期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。

【到達目標】

1. 就職内定先の業務を把握することができる。
2. 業務の改善を必要とする課題を見つけ報告ができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (1)
2回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (2)
3回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (3)
4回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (4)
5回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (5)
6回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (6)
7回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (7)
8回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (8)
9回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (9)
10回目	就職内定先の業務を把握するために現場での経験を積む (10)
11回目	現場経験から業務の改善を必要とすることを見つける (1)
12回目	現場経験から業務の改善を必要とすることを見つける (2)
13回目	業務の改善を必要とすることを課題としてまとめる (1)
14回目	業務の改善を必要とすることを課題としてまとめる (2)
15回目	業務の改善を必要とすることを課題を報告する
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。
評価方法	現場経験を積み途中で、業務日報を毎日記入して提出し現場担当者に見てもらいながらディスカッションを重ねる。また、それらから業務改善の課題を絞り報告内容によって評価する(100%)。

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	特別研究課題 (Advanced Research Project from a Workplace)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	後期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。

【到達目標】

1. 業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。
2. 課題を解決するアイデアを実践することができる。

授 業 計 画 ・ 内 容

1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (1)
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (2)
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (3)
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (4)
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える (5)
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (1)
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う (2)
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (1)
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (2)
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (3)
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する (4)
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する(100%)。

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	卒業企業課題 (Practical Assignment from a Workplace)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	前期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。

【到達目標】

1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。
2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。
3. 採用されたイベント企画を実践することができる。

授業計画・内容

1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (1)
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (2)
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (3)
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (1)
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (2)
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (3)
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (1)
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (2)
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (3)
12回目	企画したイベントの実践 (1)
13回目	企画したイベントの実践 (2)
14回目	企画したイベントの実践 (3)
15回目	イベントの振り返りとまとめ

現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。

準備学習
時間外学習

評価方法

イベントの企画・立案力:30%
プレゼンテーション力:30%
実践力:40%
上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】 □

2019年度 シラバス

ドッグマスター専攻

科目名 (英語表記)	卒業企業課題 (Practical Assignment from a Workplace)	必修 選択	必修 選択	年次	卒業年次	担当教員	就職内定先企業
専攻名	ドッグマスター専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	後期 随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。

【到達目標】

1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。
2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。
3. 採用されたイベント企画を実践することができる。

授業計画・内容

1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (1)
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (2)
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる (3)
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (1)
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (2)
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する (3)
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (1)
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (2)
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする (3)
12回目	企画したイベントの実践 (1)
13回目	企画したイベントの実践 (2)
14回目	企画したイベントの実践 (3)
15回目	イベントの振り返りとまとめ

準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめる。
---------------	--

評価方法	イベントの企画・立案力:30% プレゼンテーション力:30% 実践力:40% 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。
------	--

【使用教科書・教材・参考書】 □